

Research report

令和7年度  
紀の国森づくり基金  
県民意識調査  
報告書



令和8年3月



一般財団法人 和歌山社会経済研究所



# 目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
(1) 個人意識調査の概要	1
(2) 事業所意識調査の概要	2
3. 回収の結果	2
(1) 回収結果について(個人)	2
(2) 回収結果について(事業所)	2
(3) アンケート集計の信頼性について	2
4. 集計方法、数値の取り扱いについて	3
II. 調査の結果	4
1. 回答者の属性	4
(1) 個人	4
(2) 事業所	5
2. 単純集計結果	6
(1) 個人	6
(2) 事業所	14
3. クロス集計結果	22
(1) 属性別クロス集計(個人)	22
(2) 属性別クロス集計(事業所)	22
(3) 質問項目別クロス集計	22
(4) 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)及び問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)を基準としたクロス集計(個人)	22
(5) 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)及び問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)を基準としたクロス集計(事業所)	24
(6) 問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)を基準としたクロス集計(個人)	26
(7) 問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)を基準としたクロス集計(事業所)	27
(8) 過去の調査との比較(平成27年度・令和2年度)	28
4. 自由意見集計	31
(1) 個人	31
(2) 事業所	32
5. 分析	35
6. まとめ	37

III.	アンケート調査票	38
1.	個人意識調査	38
2.	事業所意識調査	41

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、紀の国森づくり基金活用事業が、令和8年度に第4期(令和4年度～令和8年度)の最終年度を迎えるにあたり、県民の紀の国森づくり基金活用事業に関する意識の実態を把握し、これまでの事業効果や県民の今後の基金活用に対する考え等を検証するとともに、令和9年度から始まる第5期事業に向けた参考資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の概要

### (1) 個人意識調査の概要

(ア) 調査地域: 県内全域

(イ) 調査対象: 満18歳以上の県民(計2,500人)

- ① イベント配布(500人)
- ② 市町村配布(2,000人)
- ③ オンライン調査

(ウ) 調査方法

① イベント配布(500人)

・下記のイベントにてアンケートを実施

実施日	市町村名	イベント名称	場所
10/11(土)	和歌山市	わかやま商工まつり	和歌山ビッグホエール
11/1(土)	海南市	家庭用品まつり	海南市総合体育館
11/2(日)	有田川町	しみずふるさとまつり	清水行政局駐車場
11/9(日)	田辺市	田辺農林水産業まつり	扇ヶ浜公園
11/23(日)	紀の川市	紀の川市産業まつり&食育フェア	貴志川体育館

② 市町村配布(2,000人)

- ・県内30市町村に住民の割合に応じたアンケート用紙を送付
- ・市町村窓口(本所・支所)にてアンケート用紙を配布及び回収
- ・市町村が主催するイベント等でアンケート用紙を配布及び回収
- ・実施期間は、令和8年1月30日まで

③ オンライン調査

- ・県HPで二次元バーコード(Google フォーム)を活用したオンライン回答
- ・マスメディアによる県民意識オンライン調査の呼びかけ
- ・イベント配布及び市町村配布でのオンライン回答
- ・実施期間は、令和8年1月30日まで

## (2) 事業所意識調査の概要

(ア) 調査地域: 県内全域

(イ) 調査対象: 県内に所在する民営事業所(計1,000事業所)

①無作為抽出法

・経済センサスー基礎調査集計リストから無作為抽出

②従業員規模

ア. 常用雇用者が30人以上の県内事業所のうち無作為に抽出した500事業所

イ. 常用雇用者が10人以上30人未満の県内事業所のうち無作為に抽出した500事業所

(ウ) 調査方法

・各事業所へは郵送し、返信用封筒で回収する

・実施期間は、契約締結時から令和8年1月30日まで

## 3. 回収の結果

		送付数	回答数	回収率
個人意識調査		2,500 件	949 件	38.0%
	①イベント配布	500 件	433 件	86.6%
	②市町村配布	2,000 件	280 件	14.0%
	③オンライン調査	—	236 件	—
事業所意識調査		1,000 件	628 件	62.8%

### (1) 回収結果について(個人)

和歌山県の人口約87万人(令和7年4月和歌山県の推計人口より)を母集団とし、個人 2,500 件の送付を行い、949 件(38.0%)の回収となった。

### (2) 回収結果について(事業所)

和歌山県の事業所数36,530件(令和6年経済センサスー基礎調査より)を母集団とした内1,000件の送付を行い、628 件(62.8%)の回収となった

### (3) アンケート集計の信頼性について

上記の結果をふまえ、下記アンケートサンプルサイズ算出表に当てはめた。

母集団数	許容誤差(信頼レベル 95%)			信頼レベル(許容誤差 5%)		
	10%	5%	1%	90%	95%	99%
10,000	96 件	370 件	4,900 件	264 件	370 件	623 件
100,000	96 件	383 件	8,763 件	270 件	383 件	660 件
1,000,000~	97 件	384 件	9,513 件	271 件	384 件	664 件

個人調査では、許容誤差5%以内(100回同じアンケートを行った時に回答のばらつきが出る割合が5%以内)、信頼レベルは99%超(母集団全員にアンケートを行った時との回答の一致が99%超)となった。事業所調査でも許容誤差5%以内、信頼レベルは99%超となった。

一般的にアンケート調査において回収率は30%あればよいとされている中で、今回の調査は個人調査は30%以上、事業所調査は60%以上の回収率を確保できており、アンケート集計の信頼性は十分確保されている。

なお、今回の個人意識調査については、個人情報の取り扱いが厳しくなったことにより、ランダムに抽出して個人宛に郵送することができなくなった。そのため、市町村役場の窓口やイベントでの回答、オンライン回答などを用いて無作為抽出で実施した。調査方法は変わったが、アンケートの信頼性は十分確保されている。

#### 4. 集計方法、数値の取り扱いについて

- 集計は件数により割り出した百分率(%)によるものを基本とする
- 百分率の集計結果は、小数点第2位を四捨五入した数値を表記している。そのため百分率の和が100.0%にならない場合がある
- 複数回答の設問は回答人数を分母としているため百分率の和が100.0%以上となる
- 単純集計のグラフでは、未回答を除いた有効回答数を表記している
- クロス集計の帯グラフでは繁雑な表示となることを避けるため狭小部分への数値表記を省略する場合がある。
- クロス集計において設問項目毎にある未回答の兼ね合いにより数値が必ずしも一致しない場合がある

## II. 調査の結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 個人

##### ① 年齢

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	18~29歳	102	10.7
2	30~39歳	146	15.4
3	40~49歳	187	19.7
4	50~59歳	182	19.2
5	60~69歳	167	17.6
6	70歳以上	144	15.2
	無回答	21	2.2
	N (% <sup>^</sup> -λ)	949	100.0

##### ② 職業

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	会社員	179	18.9
2	公務員・団体職員	286	30.1
3	自営業	64	6.7
4	農林水産業	43	4.5
5	パート・アルバイト	135	14.2
6	学生	15	1.6
7	家事専業	85	9.0
8	無職	107	11.3
9	その他	27	2.8
	無回答	8	0.8
	N (% <sup>^</sup> -λ)	949	100.0

##### ③ 森林所有の有無

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	所有している	164	17.3
2	所有していない	773	81.5
	無回答	12	1.3
	N (% <sup>^</sup> -λ)	949	100.0

##### ④ 居住市町村

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	和歌山市	132	13.9
2	海南市	38	4.0
3	橋本市	13	1.4
4	有田市	60	6.3
5	御坊市	21	2.2
6	田辺市	92	9.7
7	新宮市	15	1.6
8	紀の川市	155	16.3
9	岩出市	47	5.0
10	紀美野町	6	0.6
11	かつらぎ町	20	2.1
12	九度山町	9	0.9
13	高野町	24	2.5
14	湯浅町	22	2.3
15	広川町	23	2.4
16	有田川町	86	9.1

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
17	美浜町	15	1.6
18	日高町	30	3.2
19	由良町	21	2.2
20	印南町	13	1.4
21	みなべ町	10	1.1
22	日高川町	24	2.5
23	白浜町	2	0.2
24	上富田町	9	0.9
25	すさみ町	0	0.0
26	那智勝浦町	2	0.2
27	太地町	0	0.0
28	古座川町	0	0.0
29	北山村	6	0.6
30	串本町	2	0.2
31	県外	25	2.6
	無回答	27	2.8
	N (% <sup>^</sup> -λ)	949	100.0

## (2)事業所

### ① 住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	和歌山市	285	45.4
2	海南市	27	4.3
3	橋本市	25	4.0
4	有田市	20	3.2
5	御坊市	20	3.2
6	田辺市	47	7.5
7	新宮市	14	2.2
8	紀の川市	38	6.1
9	岩出市	17	2.7
10	紀美野町	10	1.6
11	かつらぎ町	12	1.9
12	九度山町	2	0.3
13	高野町	2	0.3
14	湯浅町	4	0.6
15	広川町	2	0.3
16	有田川町	17	2.7

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
17	美浜町	2	0.3
18	日高町	0	0.0
19	由良町	3	0.5
20	印南町	4	0.6
21	みなべ町	7	1.1
22	日高川町	9	1.4
23	白浜町	21	3.3
24	上富田町	13	2.1
25	すさみ町	2	0.3
26	那智勝浦町	3	0.5
27	太地町	4	0.6
28	古座川町	0	0.0
29	北山村	0	0.0
30	串本町	7	1.1
31	県外	0	0.0
	無回答	11	1.8
	N (% <sup>^</sup> -λ)	628	100.0

### ② 業種

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林漁業	22	3.5
2	鉱業・採石業・砂利採取業	4	0.6
3	建設業	63	10.0
4	製造業	132	21.0
5	電気・ガス・熱供給・水道業	4	0.6
6	情報通信業	2	0.3
7	運輸業・郵便業	37	5.9
8	卸売・小売業	78	12.4
9	金融・保険業	14	2.2
10	不動産業・物品賃貸業	3	0.5
11	宿泊業、飲食サービス業	26	4.1
12	医療、福祉	138	22.0
13	教育、学習支援業	15	2.4
14	その他のサービス業	75	11.9
	無回答	15	2.4
	N (% <sup>^</sup> -λ)	628	100.0

### ③ 従業員数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1~9人	57	9.1
2	10~29人	209	33.3
3	30~49人	145	23.1
4	50~99人	109	17.4
5	100人以上	99	15.8
	無回答	9	1.4
	N (% <sup>^</sup> -λ)	628	100.0

### ④ 資本金

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	50億を超える	24	3.8
2	10億を超え50億以下	18	2.9
3	1億を超え10億以下	55	8.8
4	1千万を超え1億以下	285	45.4
5	1~4以外の法人	205	32.6
	無回答	41	6.5
	N (% <sup>^</sup> -λ)	628	100.0

### ⑤ 森林所有の有無

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	所有している	51	8.1
2	所有していない	559	89.0
	無回答	18	2.9
	N (% <sup>^</sup> -λ)	628	100.0

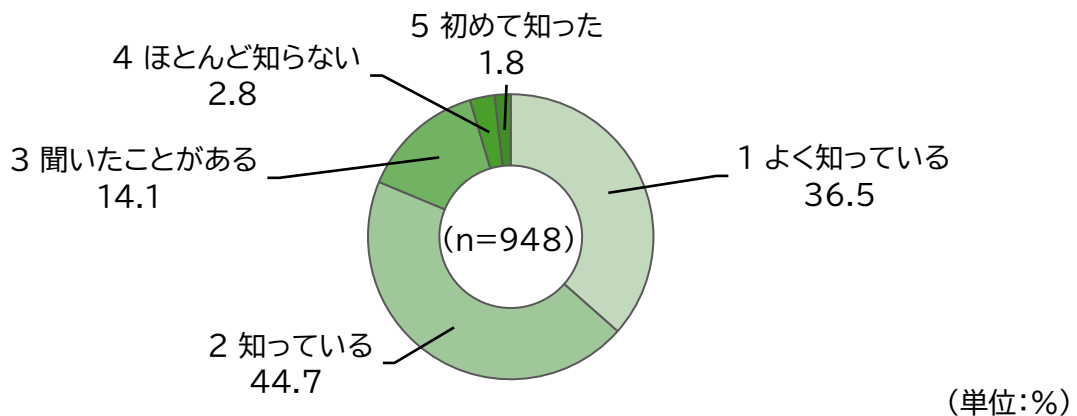
## 2. 単純集計結果

### (1) 個人

問1 森林がきれいな水や新鮮な空気を育み、災害から生活を守り、地球温暖化の防止など様々な役割を果たしていることをご存じでしたか？（○は1つ）

回答者の81.2%が森林の機能についての認識があった。（「よく知っている（36.5%）」、「知っている（44.7%）」森林に対する重要性を認識しているという結果となっている。

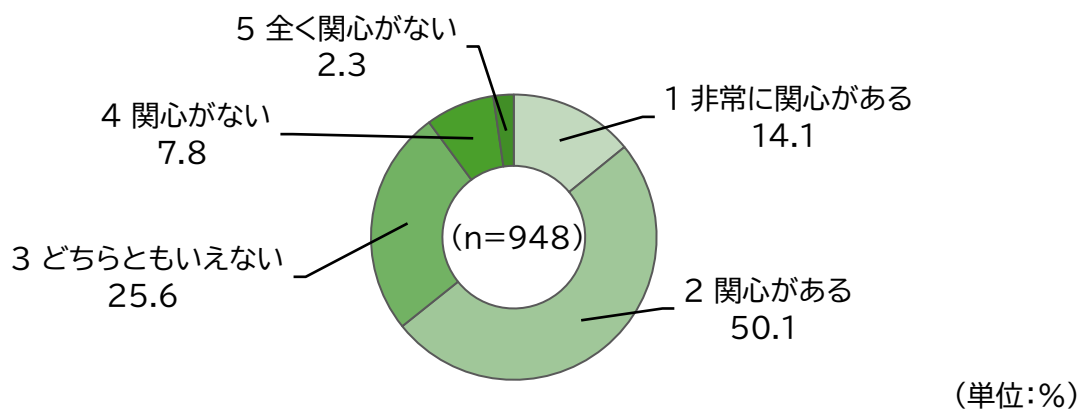
図1 森林の役割の認知度



問2 森林散策や山登りなどのレクリエーション等を含め、森林に関心や興味はありますか？（○は1つ）

回答者の64.2%が森林への関心を持っていた。（「非常に関心がある（14.1%）」、「関心がある（50.1%）」）

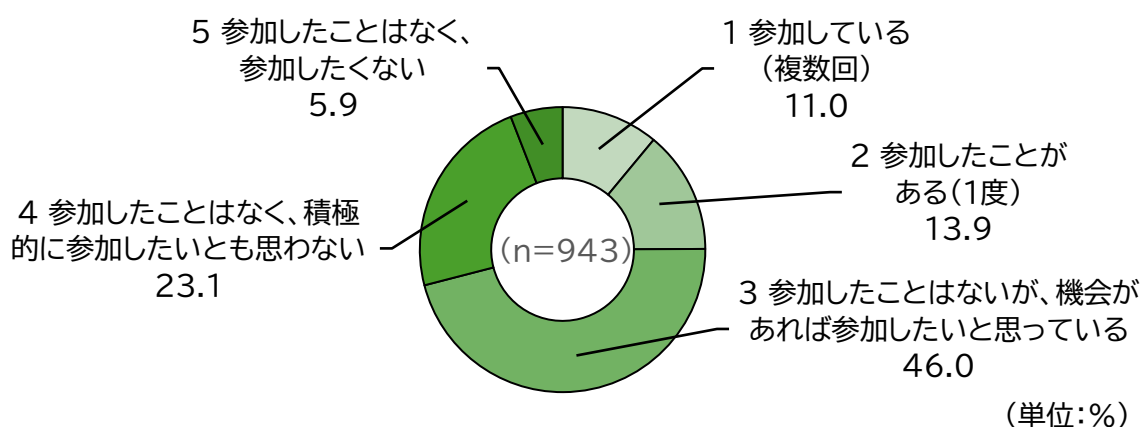
図2 森林への興味・関心度



問3 過去に、植樹や間伐などの森林整備や、森づくりのイベント、ボランティア活動に参加されたことはありますか？（○は1つ）

「参加している(複数回)(11.0%)」、「参加したことがある(1度)(13.9%)」と回答者の24.9%が森づくりのイベントやボランティア活動の参加経験があった。また、「参加したことはないが、機会があれば参加したいと思っている(46.0%)」といった積極的な回答を合わせると、70.9%となり、「参加したことはなく、積極的に参加したいと思わない(23.1%)」、「参加したことはなく、参加したくない(5.9%)」を合わせた29.0%の消極的な回答の2倍以上となり、森林関連活動への参加意欲の高さが伺える。

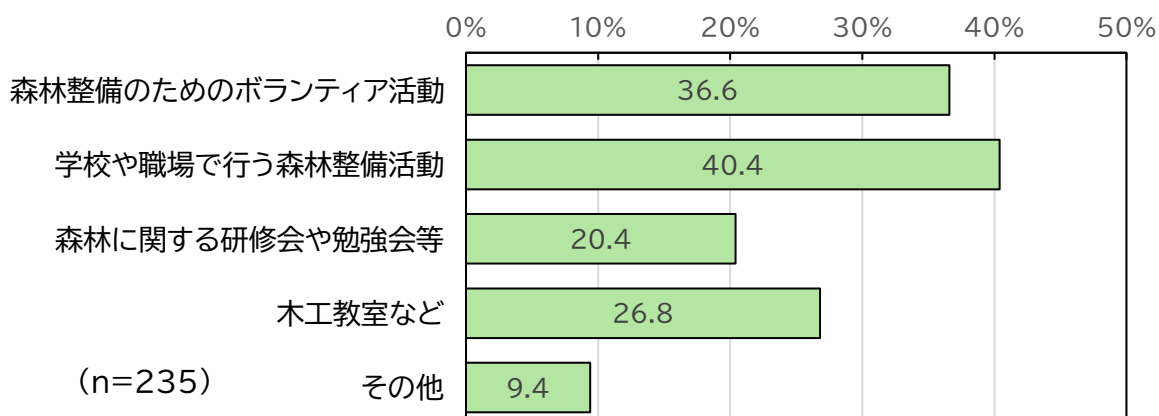
図3 森林保全活動への参加経験



問4 問3で1または2と回答された方にお聞きます。どのような活動に参加されましたか？（○は複数可）

問3でイベントやボランティアなどの活動に参加した経験のある回答者のうち、参加した活動の内容は「学校や職場で行う森林整備活動(40.4%)」、「森林整備のためのボランティア活動(36.6%)」などが多くを占めた。「その他」では、植樹・植林・間伐活動等のイベントへの参加や、博物館など他団体主催の活動への参加が主な事例であった。

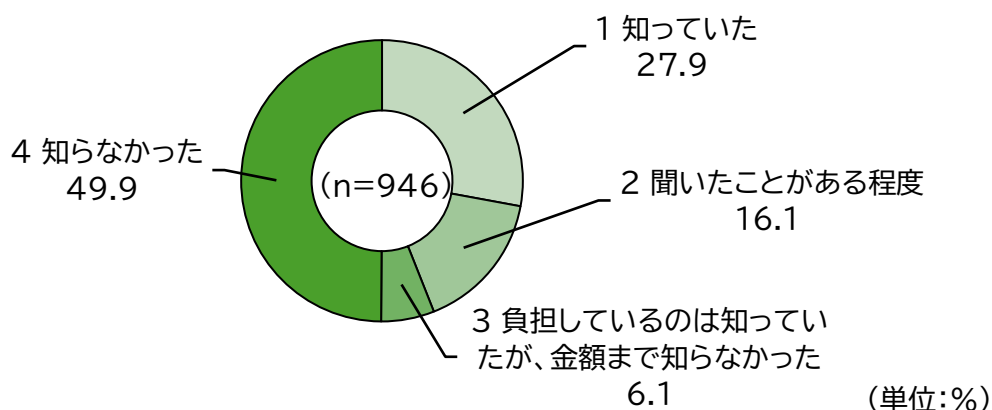
図4 参加した森林保全活動の内容



問5 「紀の国森づくり税」のことや、「紀の国森づくり税」として年間500円を負担していただいていることをご存じでしたか？（○は1つ）

【紀の国森づくり税】のことや【紀の国森づくり税】の税負担の認識があった回答者は50.1%であった。（「知っていた(27.9%)」、「聞いたことがある程度(16.1%)」、「負担しているのは知っていたが、金額まで知らなかった(6.1%)」）

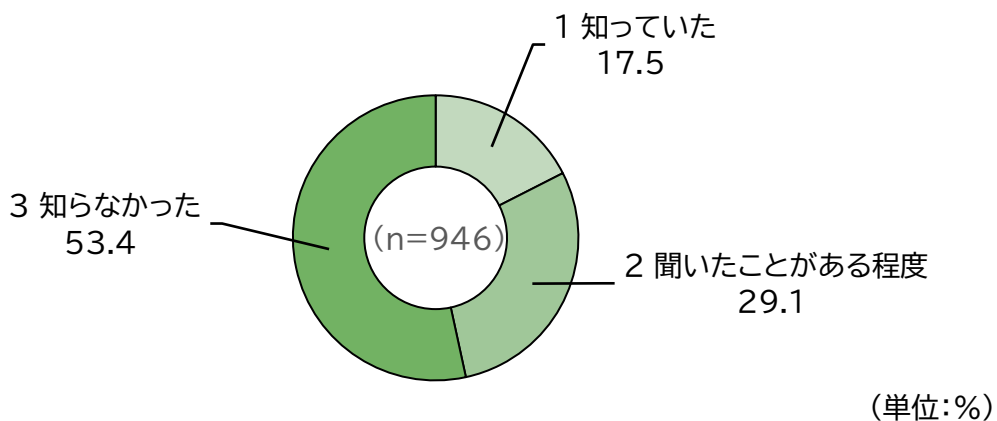
図5 「紀の国森づくり税」の認知度



問6 「紀の国森づくり基金活用事業」について、この調査までにご存知でしたか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】を知っているという回答者は 46.6%であった。（「知っていた(17.5%)」、「聞いたことがある程度(29.1%)」）

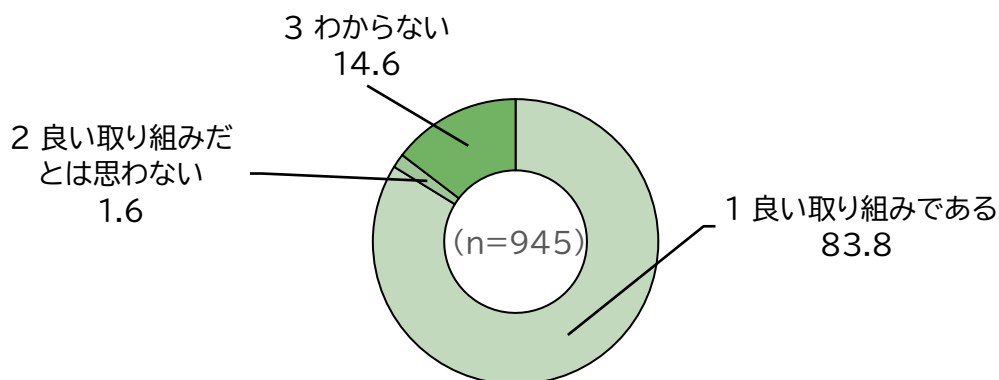
図6 「紀の国森づくり基金」の認知度



問7 「ふるさと再生の森」では、森林の機能を復活するために、放置された竹林や生育不良のスギ・ヒノキ林から里山本来の広葉樹林への転換を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（〇は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「ふるさと再生の森」の取り組みに理解を示している回答者は83.8%であった。

図7 「ふるさと再生の森」の是非

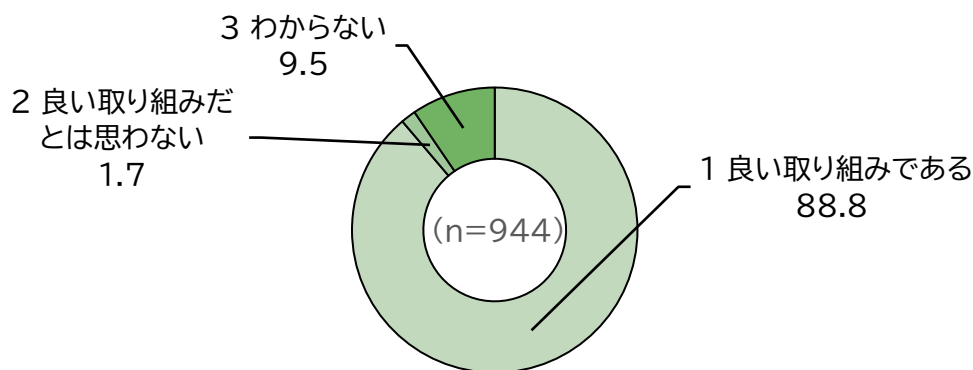


(単位:%)

問8 「森林景観づくり」では、健全な森林の育成や憩いの場の創出のために、森林への病害虫の防除や、県民参加による森林整備を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（〇は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「森林景観づくり」の取り組みに理解を示している回答者は88.8%であった。

図8 「森林景観づくり」の是非

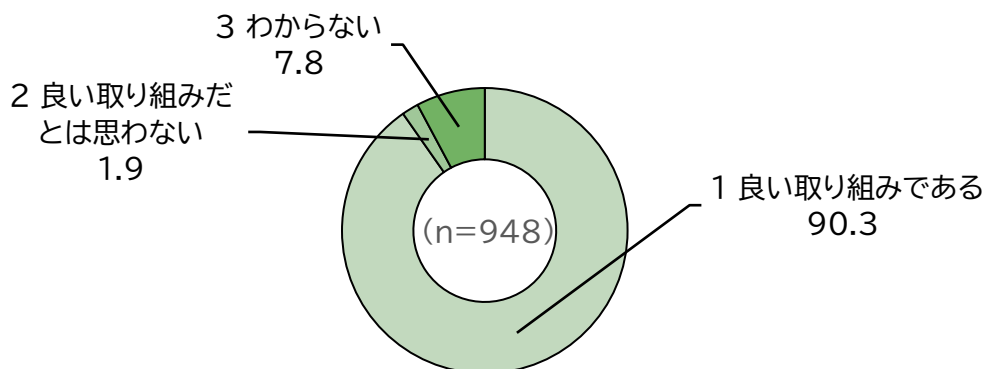


(単位:%)

問9 「紀の国緑育推進」では、子どもを含む県民を対象に、森林・林業の重要性について理解・関心を深めるため、森林体験や森林学習などの活動を支援しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「紀の国緑育推進」の取り組みに理解を示している回答者は90.3%であった。

図9 「紀の国緑育推進」の是非

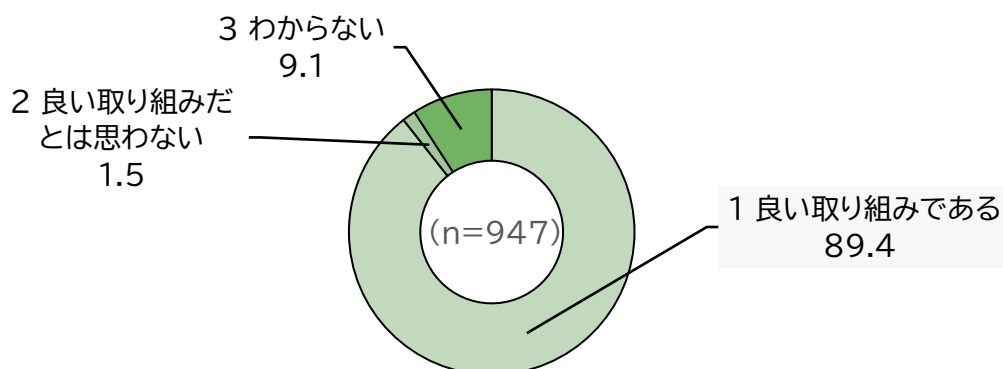


(単位:%)

問10 「花粉症対策」では、花粉症を軽減するために、花粉の少ない苗木の育成や植栽への支援を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「花粉症対策」の取り組みに理解を示している回答者は89.4%であった。

図10 「花粉症対策」の是非

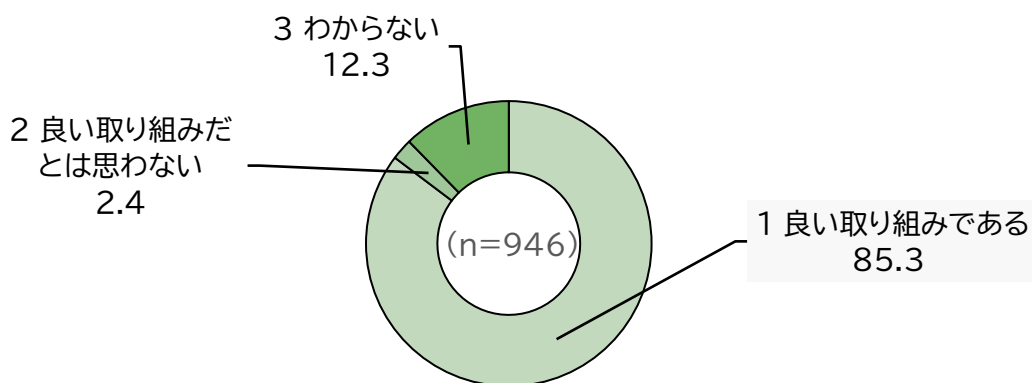


(単位:%)

問11 「森林公的管理」では、貴重な生態系や天然林、優れた景観を有する森林を県の公有財産として購入し、保護しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「森林公的管理」の取り組みに理解を示している回答者は85.3%であった。

図11 「森林公的管理」の是非

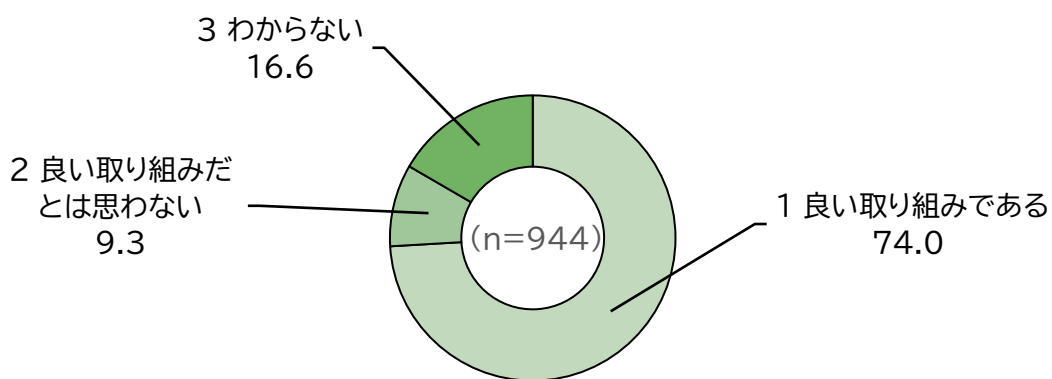


(単位:%)

問12 「紀州材魅力発信」では、紀州材を利用し、ガードレールを木製へ転換、公共施設の木造化を進めています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「紀州材魅力発信」の取り組みに理解を示している回答者は74.0%であった。

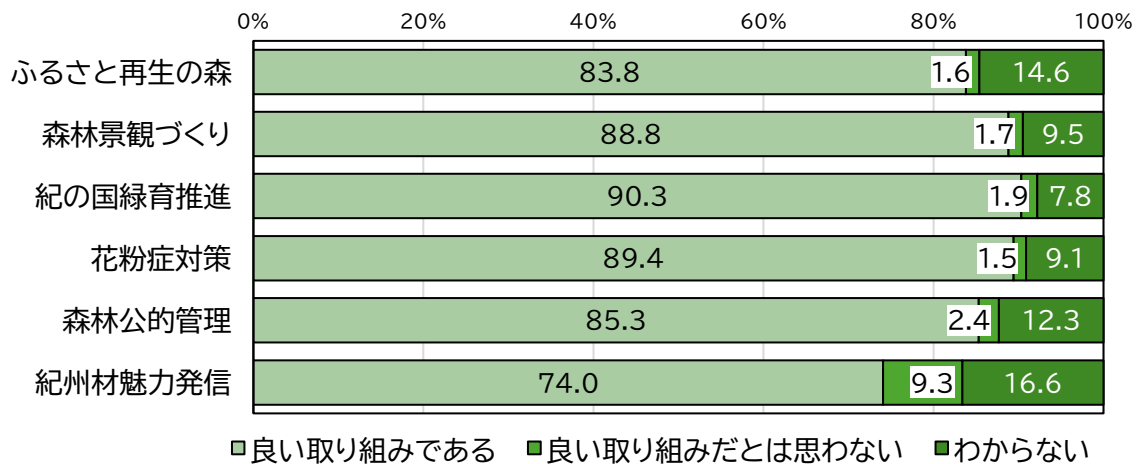
図12 「紀州材魅力発信」の是非



(単位:%)

問7から問12までの結果を横断的に考察すると、【紀の国森づくり基金活用事業】の6つの取り組みのうち、「紀州材魅力発信」のみが、80%を下回っている。

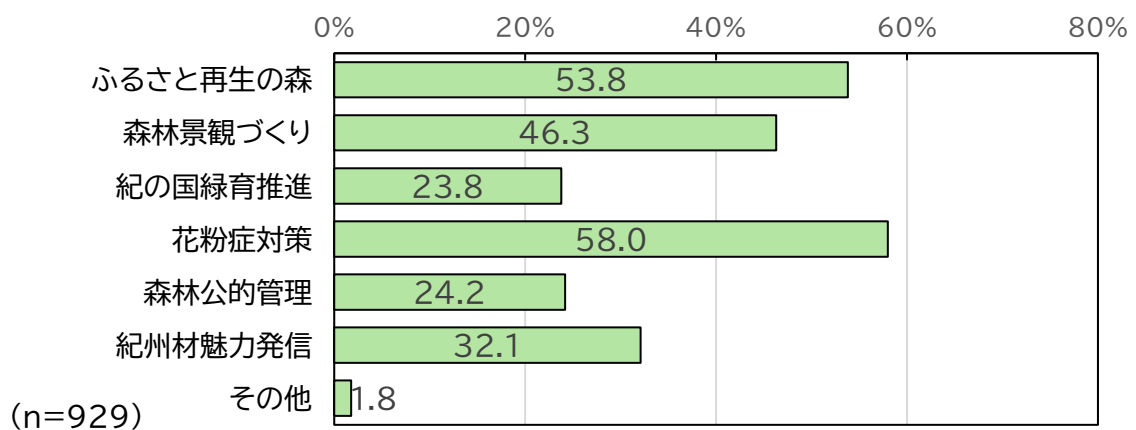
図13 【紀の国森づくり基金活用事業】の取り組み別の是非



問13 今後、さらに積極的に取り組んで欲しいことを3つまでお選びください。(○は3つまで)

積極的に取り組むべき事業として、回答の多かったものは、「ふるさと再生の森(60.3%)」、「花粉症対策(59.3%)」、「森林景観づくり(47.9%)」であった。その他の意見としてクマなどの獣害対策、カーボンクレジットの活用などがあつた。

図14 積極的に取組むべき事業

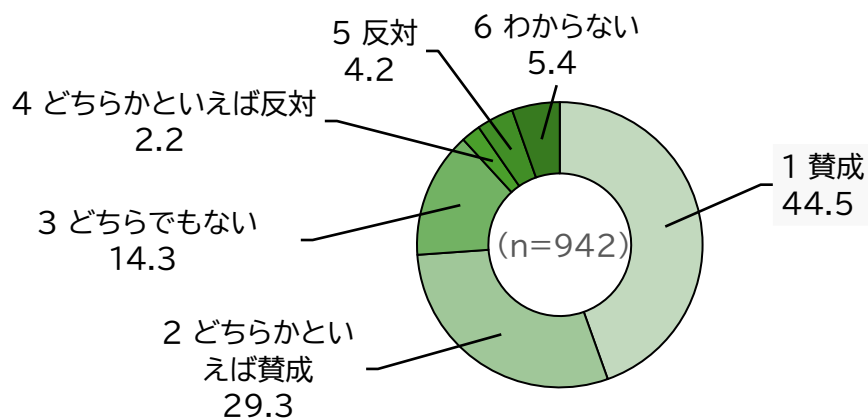


問14 現在の「紀の国森づくり税」を、令和8年度以降も継続することについて、どのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答した割合は合計で 73.8%（「賛成(44.5%)」「どちらかといえば賛成(29.3%)」）であった。

一方で、「どちらかといえば反対」、「反対」と回答した割合は合計で6.4%（「どちらかといえば反対(2.2%)」、「反対(4.2%)」）であった。

図15 「紀の国森づくり税」継続の是非



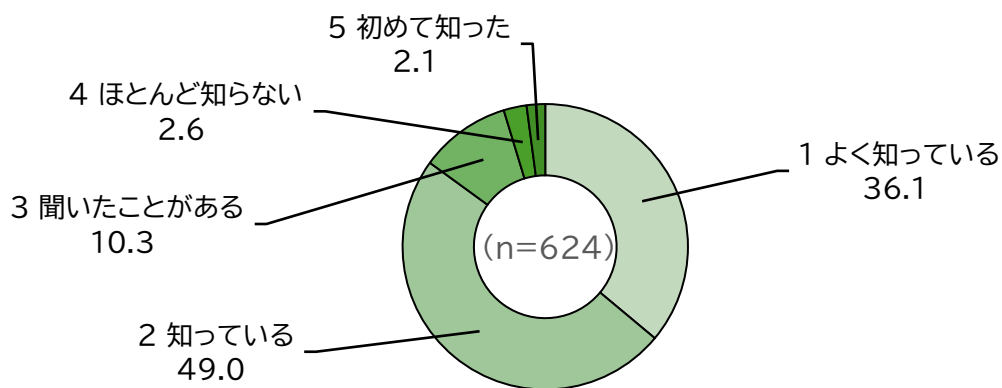
(単位:%)

## (2) 事業所

問1 森林がきれいな水や新鮮な空気を育み、災害から生活を守り、地球温暖化の防止など様々な役割を果たしていることをご存じでしたか？（○は1つ）

事業所の85.1%が森林の機能についての認識があった（「よく知っている（36.1%）」、「知っている（49.0%）」）。森林が健全な社会生活を維持していく上で、重要な役割を果たしているということは県下事業所の共通の認識であると考えられる。

図16 森林の役割の認知度

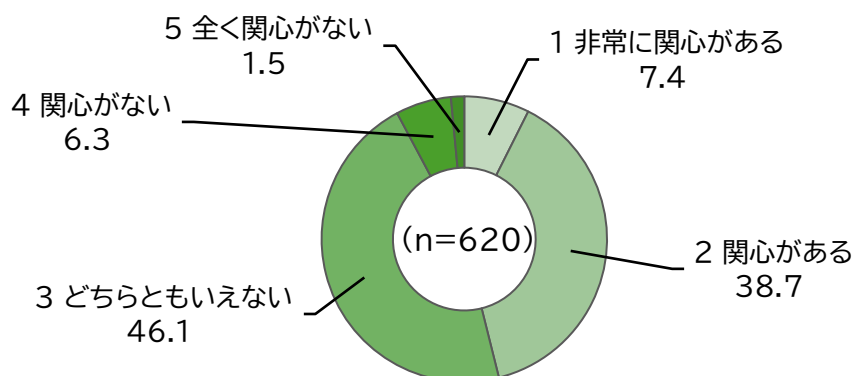


(単位:%)

問2 貴社では、社会貢献活動の一環として、森林の整備などについて関心がありますか？（○は1つ）

事業所の46.1%が森林への関心を持っていた。（「非常に関心がある（7.4%）」、「関心がある（38.7%）」）一方で、「どちらとも言えない（46.1%）」という事業所も同割合存在している。

図17 森林への興味・関心度

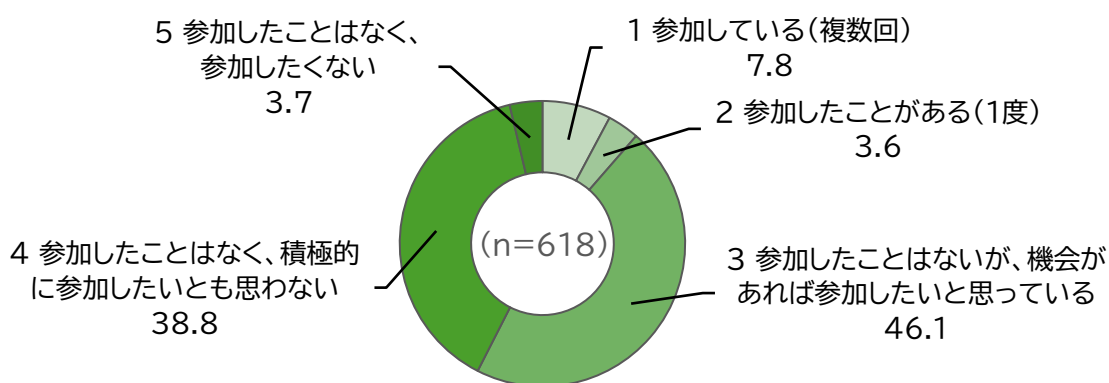


(単位:%)

問3 貴社では、過去に、森林での間伐や下刈りなどの手入れをするための寄附やボランティア活動、CSRの一環として森林保全活動に企業として参加もしくは実施したことはありますか？（○は1つ）

「参加している(複数回)(7.8%)」、「参加したことがある(3.6%)」と11.4%の事業所がなんらかの形で森づくりイベントやボランティア活動に参加している。また、「参加したことはないが、機会があれば参加したいと思っている(46.1%)」といった積極的な意見を合わせると57.5%となり、「参加したことはなく、積極的に参加したいと思わない(38.8%)」、「参加したことはなく、参加したくない(3.7%)」を合わせた42.5%の消極的な意見を上回った。

図18 森林保全活動への参加経験

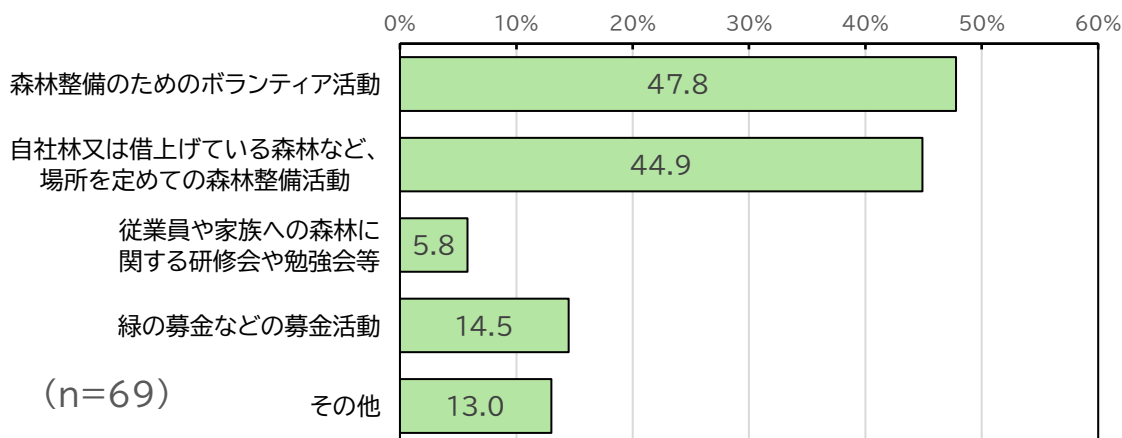


(単位:%)

問4 問3で1または2と回答された方にお聞きます。どのような活動をされていますか？（○はいくつでも可）

問3でイベントやボランティアなどの活動に参加した経験のある事業所のうち、参加した活動の内容は「森林整備のボランティア(47.8%)」、「自社林又は借上げている森林など、場所を定めての森林整備活動(44.9%)」などが多くを占めた。「その他」では、企業の森への参加、植樹・間伐イベントへの参加、所有森林をビオトープに提供するなどの事例が寄せられた。

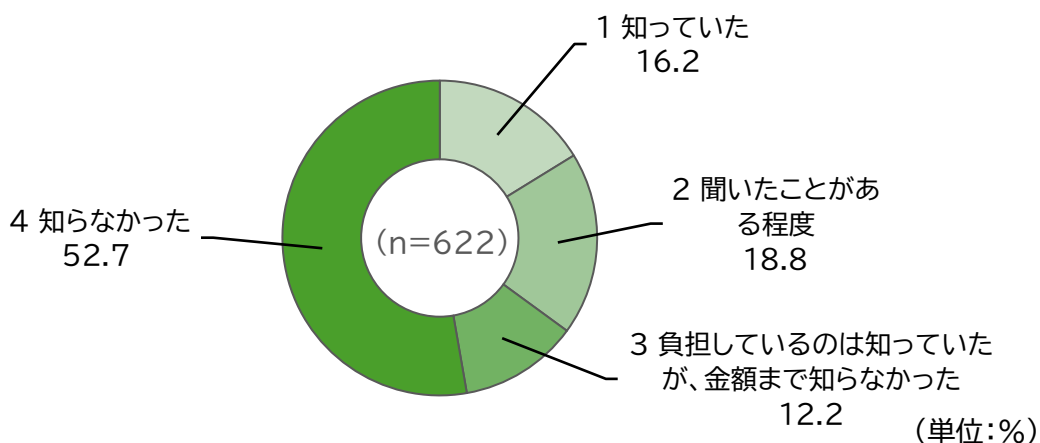
図19 参加した森林保全活動の内容



問5 「紀の国森づくり税」のことや、「紀の国森づくり税」として法人の県民税均等割の税率の5%相当額(資本金等に応じて1千円~4万円)を負担していただいていることをご存じでしたか？ (○は1つ)

【紀の国森づくり税】や【紀の国森づくり税】の税負担について認識があった事業所は47.2%であった。(「知っていた(16.2%)」、「聞いたことがある程度(18.8%)」、「負担しているのは知っていたが、金額までは知らなかった(12.2%)」)

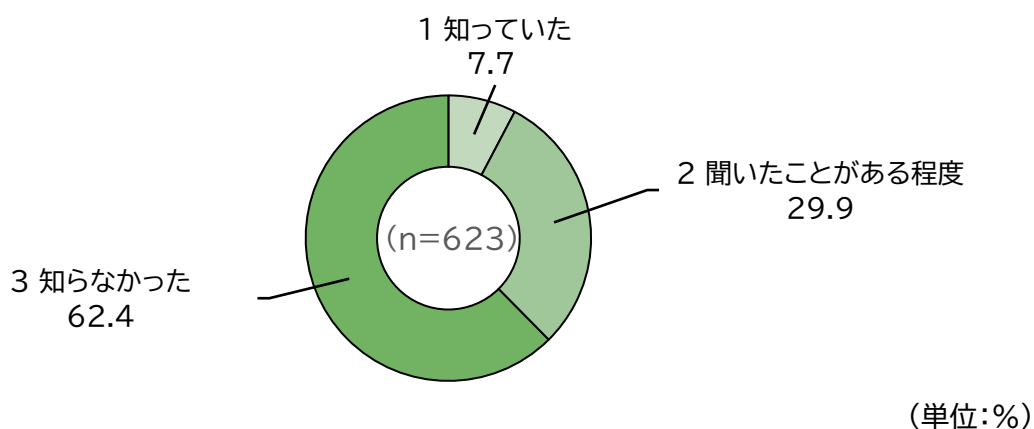
図20 「紀の国森づくり税」の認知度



問6 「紀の国森づくり基金活用事業」について、この調査までにご存知でしたか？ (○は1つ)

【紀の国森づくり基金活用事業】を知っているという事業所は37.6%であった。(「知っていた(7.7%)」、「聞いたことがある程度(29.9%)」)に対して、「知らなかった(62.4%)」)

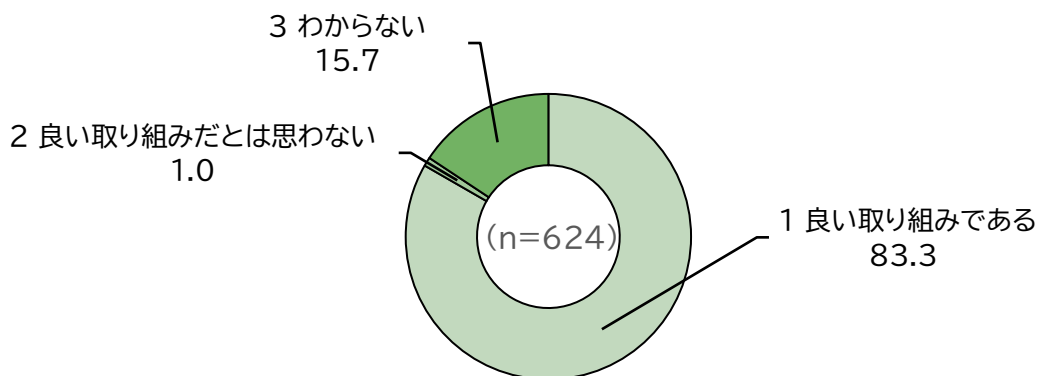
図21 「紀の国森づくり基金活用事業」の認知度



問7 「ふるさと再生の森」では、森林の機能を復活するために、放置された竹林や生育不良のスギ・ヒノキ林から里山本来の広葉樹林への転換を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（〇は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「ふるさと再生の森」の取り組みに理解を示している事業所は83.3%であった。

図22 「ふるさと再生の森」の是非

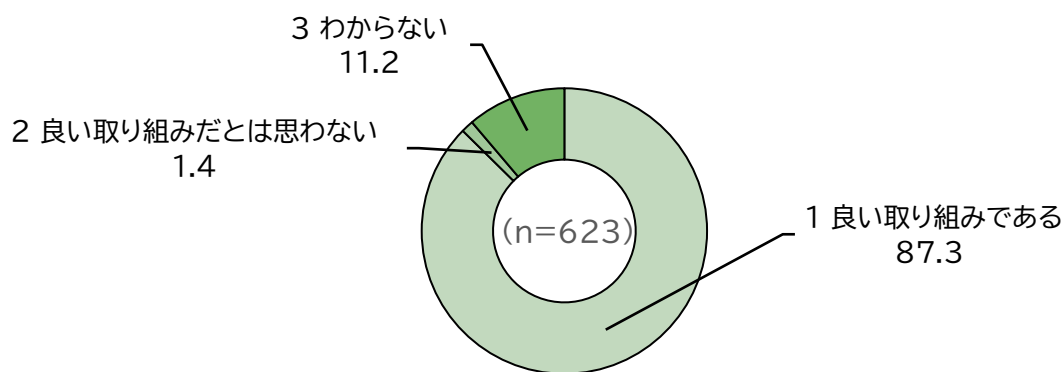


(単位:%)

問8 「森林景観づくり」では、健全な森林の育成や憩いの場の創出のために、森林への病害虫の防除や、県民参加による森林整備を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（〇は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「森林景観づくり」の取り組みに理解を示している事業所は87.3%であった。

図23 「森林景観づくり」の是非

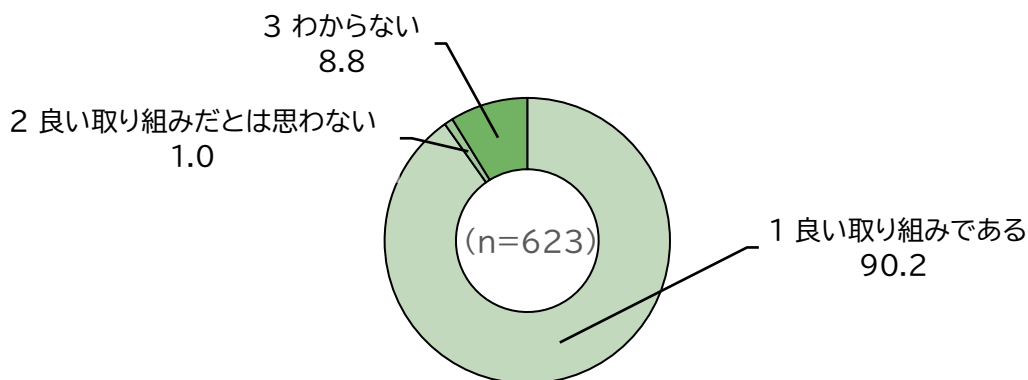


(単位:%)

問9 「紀の国緑育推進」では、子どもを含む県民を対象に、森林・林業の重要性について理解・関心を深めるため、森林体験や森林学習などの活動を支援しています。あなたはこの取り組みに対してどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「紀の国緑育推進」の取り組みに理解を示している事業所は90.2%であった。

図24 「紀の国緑育推進」の是非

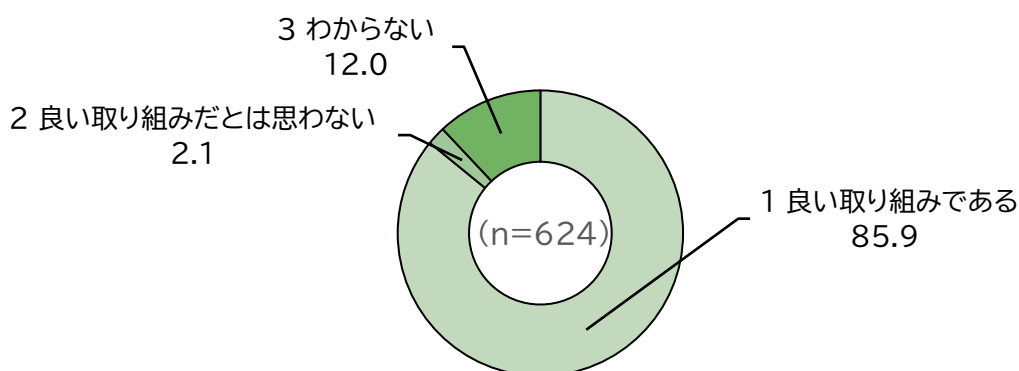


(単位:%)

問10 「花粉症対策」では、花粉症を軽減するために、花粉の少ない苗木の育成や植栽への支援を行っています。あなたはこの取り組みに対してどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「花粉症対策」の取り組みに理解を示している事業所は85.9%であった。

図25 「花粉症対策」の是非

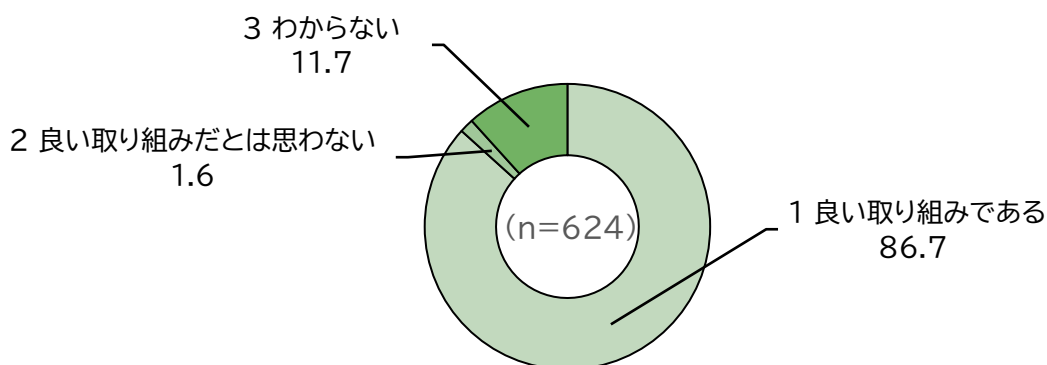


(単位:%)

問11 「森林公的管理」では、貴重な生態系や天然林、優れた景観を有する森林を県の公有財産として購入し、保護しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「森林公的管理」の取り組みに理解を示している事業所は86.7%であった。

図26 「森林公的管理」の是非

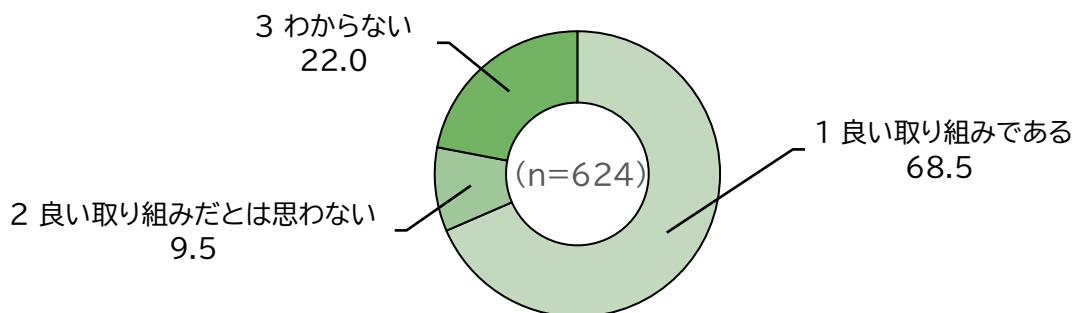


(単位:%)

問12 「紀州材魅力発信」では、紀州材を利用し、ガードレールを木製へ転換、公共施設の木造化を進めています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

【紀の国森づくり基金活用事業】における「紀州材魅力発信」の取り組みに理解を示している事業所は68.6%であった。

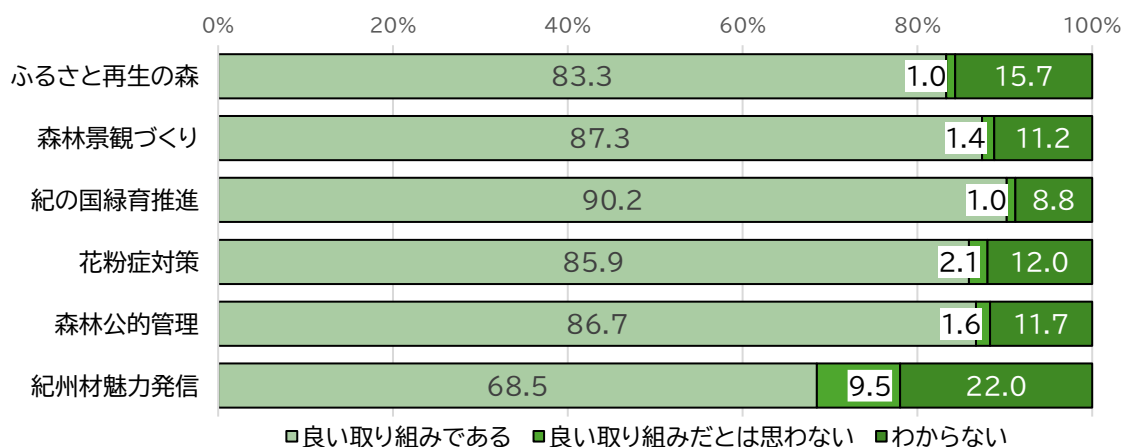
図27 「紀州材魅力発信」の是非



(単位:%)

問7から問12までの結果を横断的に考察すると、【紀の国森づくり基金活用事業】の6つの取り組みのうち、「紀州材魅力発信」のみが、70%を下回っている。

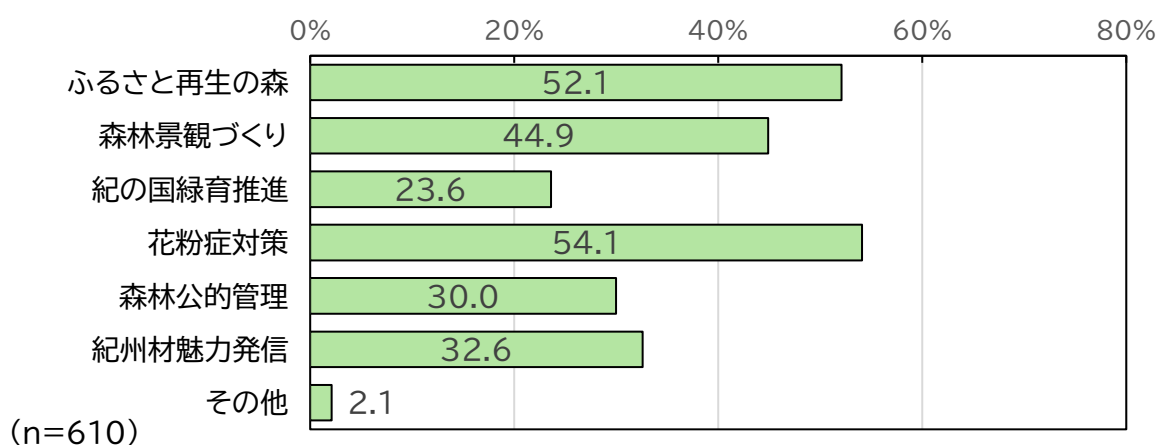
図 28 【紀の国森づくり基金活用事業】の取り組み別の是非



問13 今後、さらに積極的に取り組んで欲しいことを3つまでお選びください。(○は3つまで)

積極的に取り組むべき事業として、回答の多かったものは、「花粉症対策(54.0%)」、「ふるさと再生の森(52.2%)」、「森林景観づくり(45.0%)」であった。その他では、クマなどの害獣対策やメガソーラーの建設反対、林業への就業支援や関係人口作り、災害・地球温暖化対策森林整備、PRの強化などの意見が寄せられた。

図29 積極的に取組むべき事業

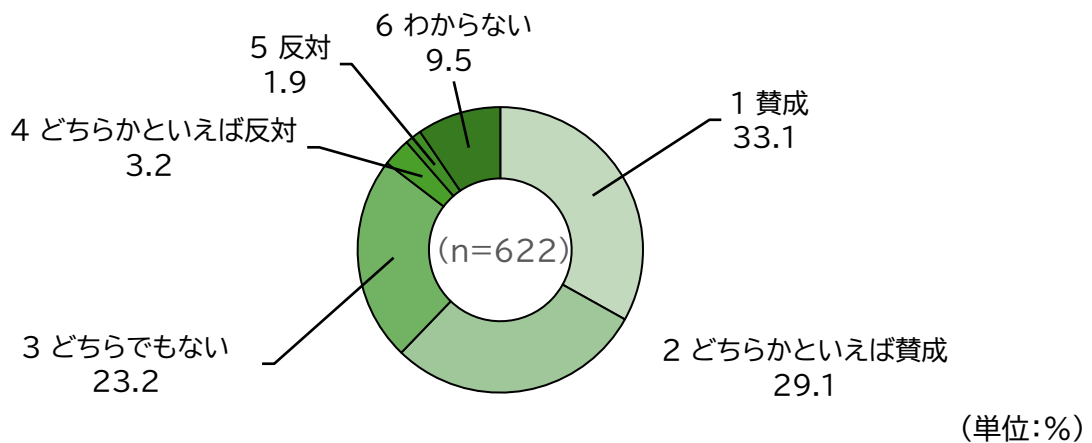


問14 現在の「紀の国森づくり税」を、令和8年度以降も継続することについて、どのように思われますか？（〇は1つ）

【紀の国森づくり税】の継続に賛成と回答した事業所は合計で62.2%（「賛成(33.1%)」「どちらかといえば賛成(29.1%)」）であった。

一方で、反対と回答した事業所は合計で5.1%（「どちらかといえば反対(3.2%)」「反対(1.9%)」）であった。

図 30 「紀の国森づくり税」継続の是非



### 3. クロス集計結果

#### (1) 属性別クロス集計(個人)

アンケート回答者の年齢、職業、住所、森林の所有の有無の5つの属性によりクロス集計を実施した。しかしながら、特筆すべき集計結果として現れなかったため別途資料編に掲載する。

#### (2) 属性別クロス集計(事業所)

アンケート回答事業所の所在地、業種、従業員数、資本金、森林の所有の有無の5つの属性によりクロス集計を実施した。しかしながら、特筆すべき集計結果として現れなかったため別途資料編に掲載する。

#### (3) 質問項目別クロス集計

アンケート質問項目のうち特定の質問項目とのクロス集計を行い、今後の事業の方向性を県民の意識に関する調査結果を抽出した。クロス集計の基準となる質問項目は問5「紀の国森づくり税」のことを知っていたか、問6「基金事業をこの調査までに知っていたか」及び問14「紀の国森づくり税」を継続することについてどのように思うか」である。

各質問項目とクロス集計を行った中で、特徴的な内容を示したものを掲載し、残りの項目は、別添資料編に掲載する。

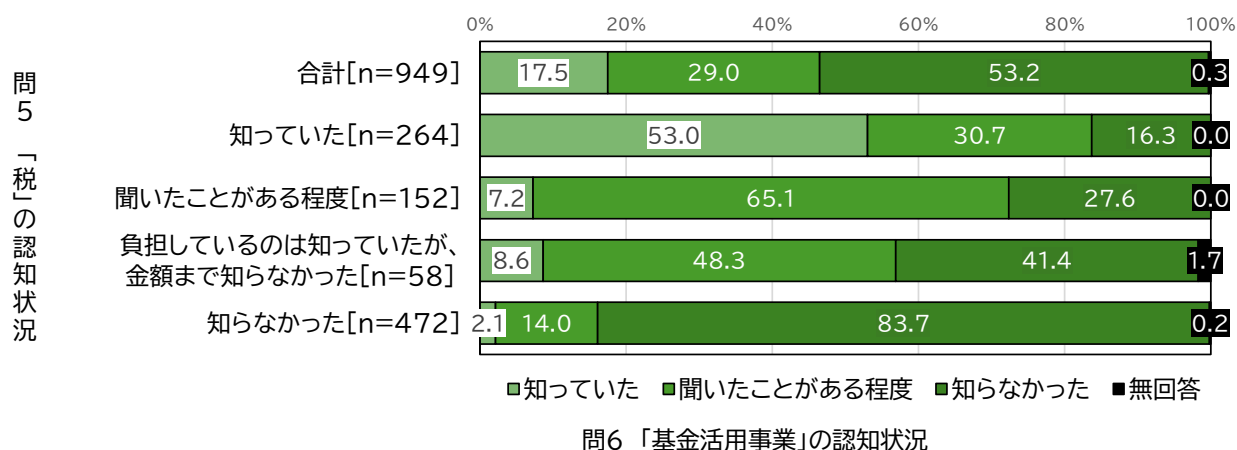
#### (4) 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)及び問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)を基準としたクロス集計(個人)

##### ① 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)×問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)

【紀の国森づくり税】を「知っていた」回答者の53.0%が【紀の国森づくり基金活用事業】についても「知っていた」と回答した。反対に、【紀の国森づくり税】のことを「知らなかった」回答者の83.7%が【紀の国森づくり基金活用事業】を「知らなかった」と回答した。

このことから、【紀の国森づくり税】と【紀の国森づくり基金活用事業】の認知状況については、強い相関関係があると考えられる。

図31 問5×問6(個人)

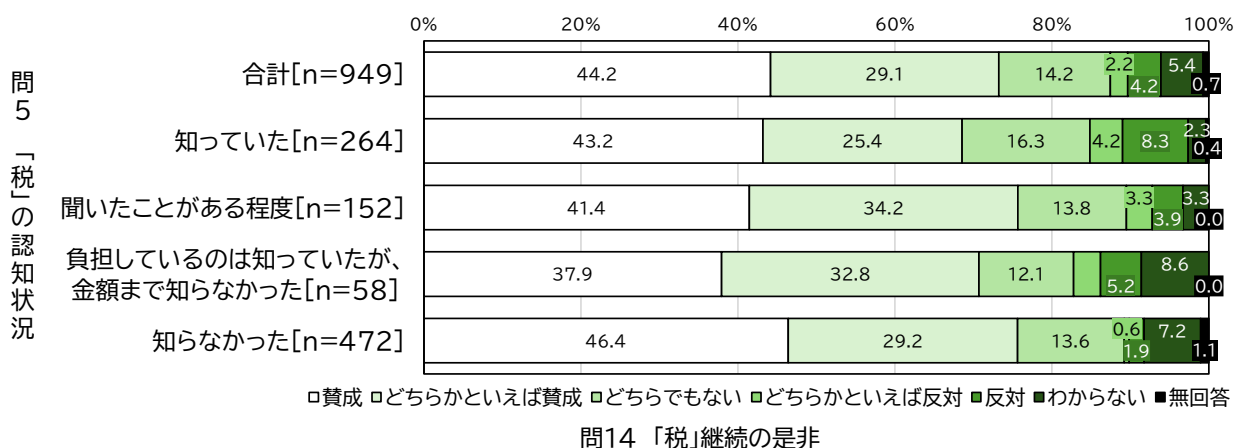


② 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)×問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)

【紀の国森づくり税】を「知っていた」回答者の68.6%が【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」、または「どちらかといえば賛成」という回答であった一方、「聞いたことがある程度」、「金額までは知らなかった」「知らなかった」と回答した者に関しても、それぞれ75.7%、70.7%、75.6%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した。

このことから、【紀の国森づくり税】の認知度にかかわらず、【紀の国森づくり税】の継続については賛同する意見が多いことが伺える。

図32 問5×問14(個人)

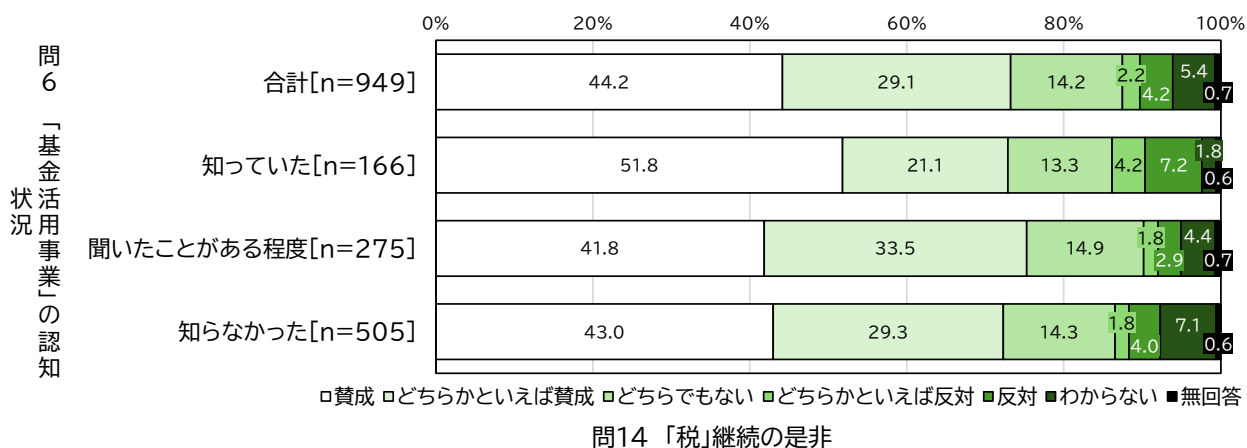


③ 問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)×問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)

【紀の国森づくり基金活用事業】を「知っていた」回答者の72.9%が【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」、または「どちらかといえば賛成」という回答であった一方、「聞いたことがある程度」、「知らなかった」と回答した者に関しても、それぞれ75.3%、72.3%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した。

このことから、【紀の国森づくり基金活用事業】についても、認知度にかかわらず、【紀の国森づくり税】の継続については賛同する意見が多いことが伺える。

図33 問6×問14(個人)



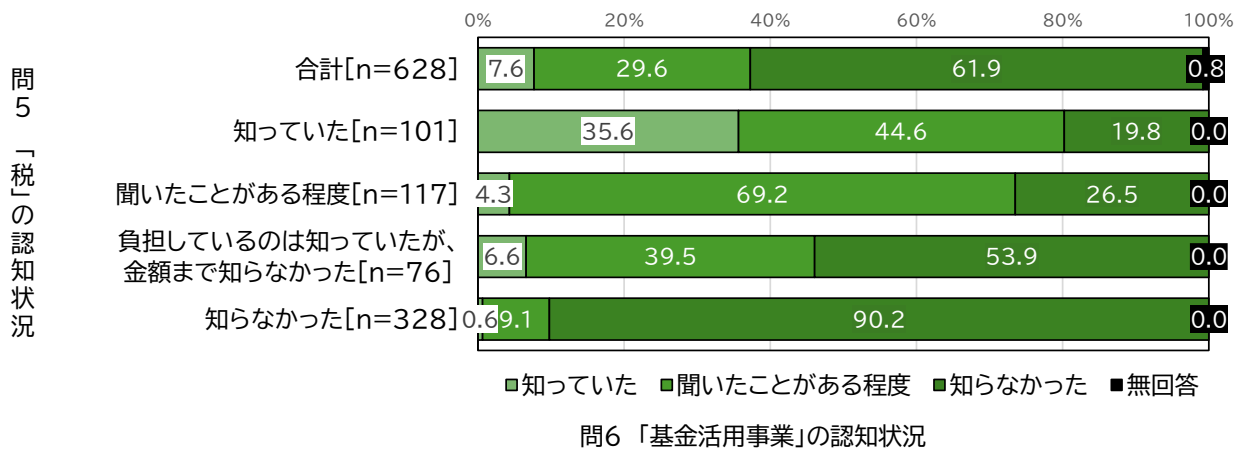
(5)問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)及び問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)を基準としたクロス集計(事業所)

① 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)×問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)

【紀の国森づくり税】を「知っていた」回答者の35.6%が紀の国森づくり基金活用事業についても「知っていた」という回答であった。反対に、【紀の国森づくり税】のことを「知らなかった」回答者の90.2%が【紀の国森づくり基金活用事業】を「知らなかった」と回答した。

このことから、【紀の国森づくり税】と【紀の国森づくり基金活用事業】の認知状況については、強い相関関係があると考えられる。

図34 問5×問6(事業所)

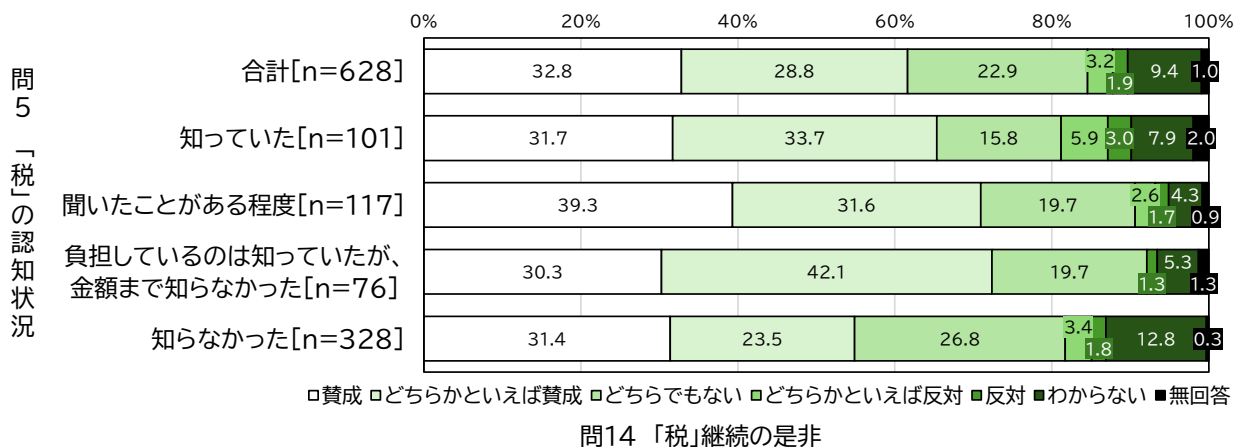


② 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)×問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)

【紀の国森づくり税】を「知っていた」、「聞いたことがある程度」、「金額までは知らなかった」と回答した者に関して、それぞれ65.3%、70.9%、72.4%が【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」、または「どちらかといえば賛成」という回答であった一方、「知らなかった」回答者の54.9%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答している。

このことから、【紀の国森づくり税】を知らない層は、【紀の国森づくり税】の継続について賛同の割合が低いことが伺える。

図35 問5×問14(事業所)

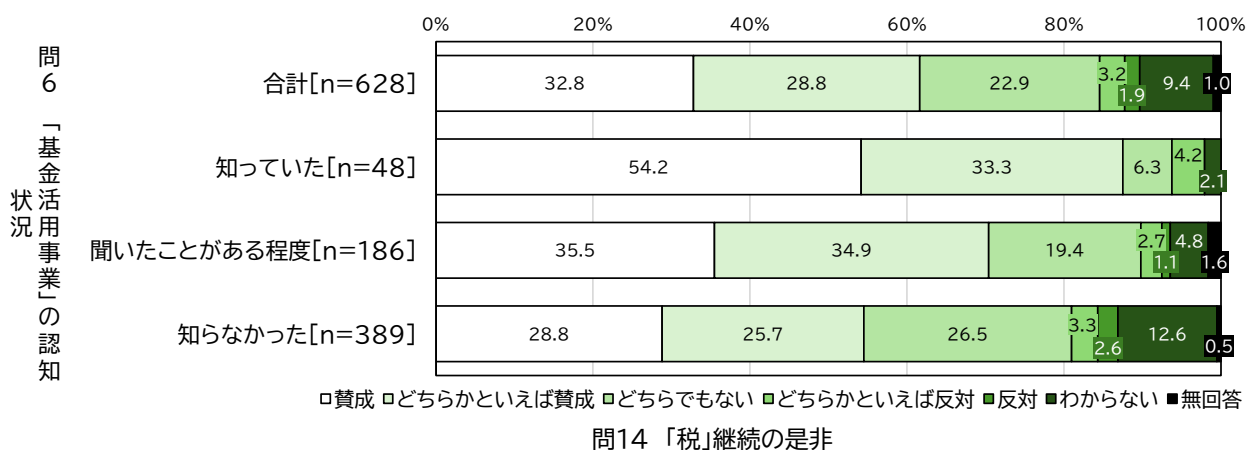


③ 問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)×問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)

【紀の国森づくり基金活用事業】を「知っていた」回答者の87.5%が【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」または「どちらかといえば賛成」という回答であった一方、「聞いたことがある程度」、「知らなかった」と回答した者に関しては、それぞれ70.4%、54.5%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答している。

このことから、【紀の国森づくり基金活用事業】の認知度が高いほど、【紀の国森づくり税】の継続に賛同する割合が高いことが伺える。

図36 問6×問14(事業所)



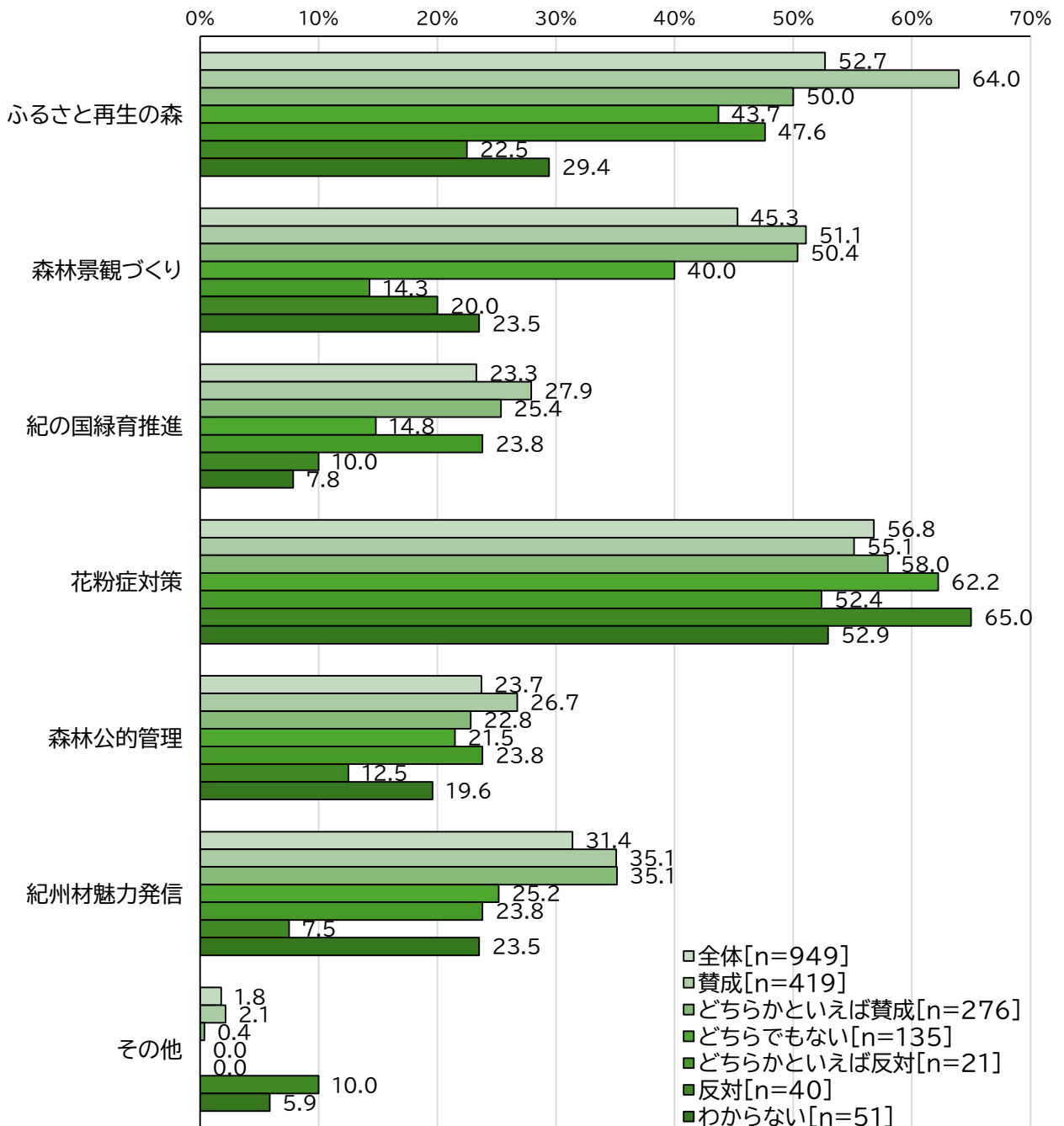
(6)問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)を基準としたクロス集計(個人)

① 問14×問13(今後積極的に取り組むべき施策)

【紀の国森づくり税】の継続に関して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した方は、全体と比べて、「花粉症対策」以外の取組の比率が高い傾向にある。

一方で、【紀の国森づくり税】の継続に関して「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」と回答した方は、「花粉症対策」以外の取組の比率が低い傾向にあり、特に「反対」と回答した方は「花粉症対策」以外の取組の比率が全体の比率のおおむね半分以下となっており、【紀の国森づくり税】の使い道についてより厳しい意見であることが伺える。

図37 問14×問13(個人)



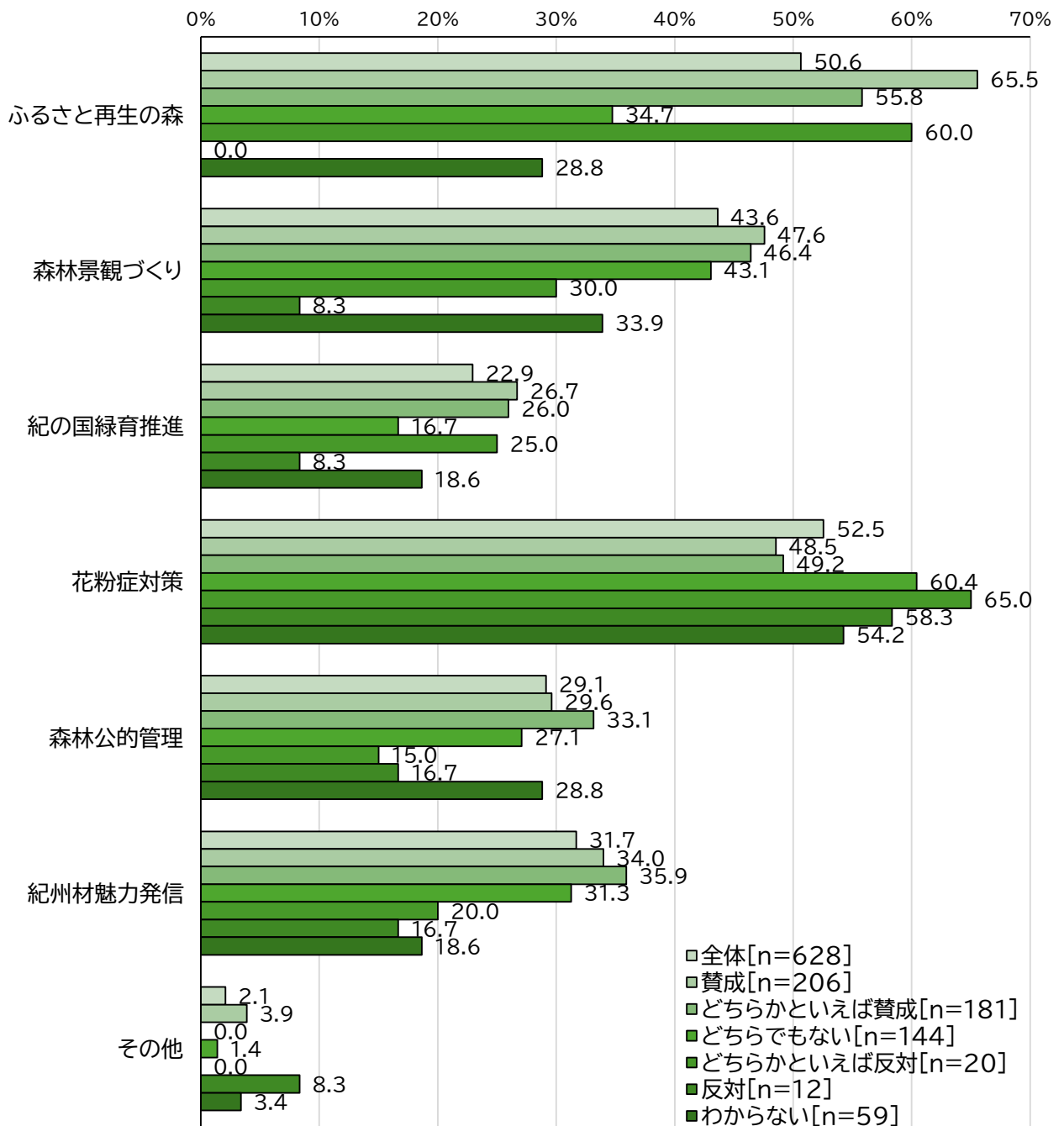
(7)問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)を基準としたクロス集計(事業所)

① 問14×問13(今後積極的に取り組むべき施策)

【紀の国森づくり税】の継続に関して「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した方は、全体と比べて、「花粉症対策」以外のすべての取組への比率が高くなっている。

一方で、【紀の国森づくり税】の継続に関して「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」と回答した方は、全体と比べて「ふるさと再生の森」、「花粉症対策」以外のすべての取組の比率が低くなっていて、【紀の国森づくり税】の使い道についてより厳しい意見であることが伺える。

図38 問14×問13(事業所)



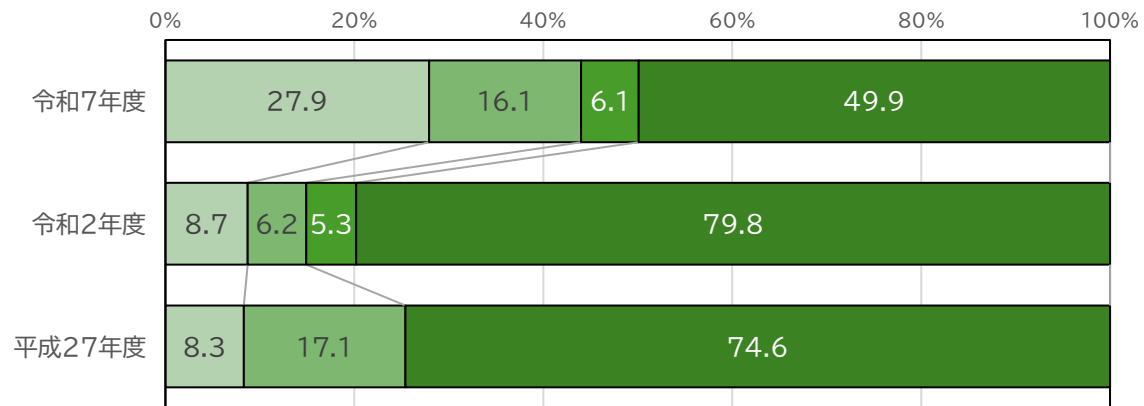
## (8)過去の調査との比較(平成27年度・令和2年度)

### 1) 個人

#### ① 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)

「紀の国森づくり税」の認知状況については、今回は前回、前々回に比べて、「知っていた」、「聞いたことがある程度」が大きく増加した一方、「知らなかった(初めて知った)」が大きく減少しており、認知度は大きく向上している。

図39 問5の経年比較(個人)

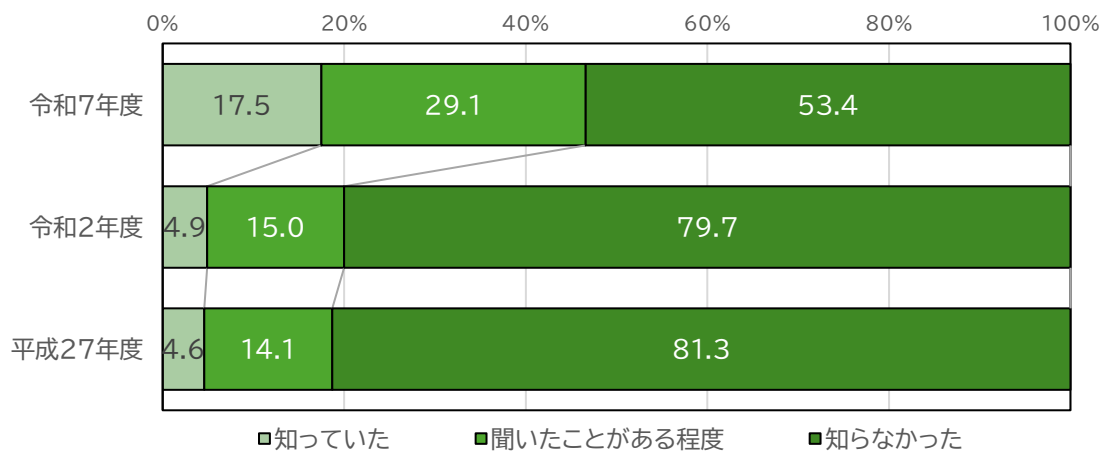


■知っていた ■聞いたことがある程度 ■負担しているのは知っていたが、金額まで知らなかった ■知らなかった

#### ② 問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)

「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況については、今回は前回、前々回に比べて、「知っていた」、「聞いたことがある程度」が大きく増加した一方、「知らなかった」が減少しており、認知度は大きく向上している。

図40 問6の経年比較(個人)

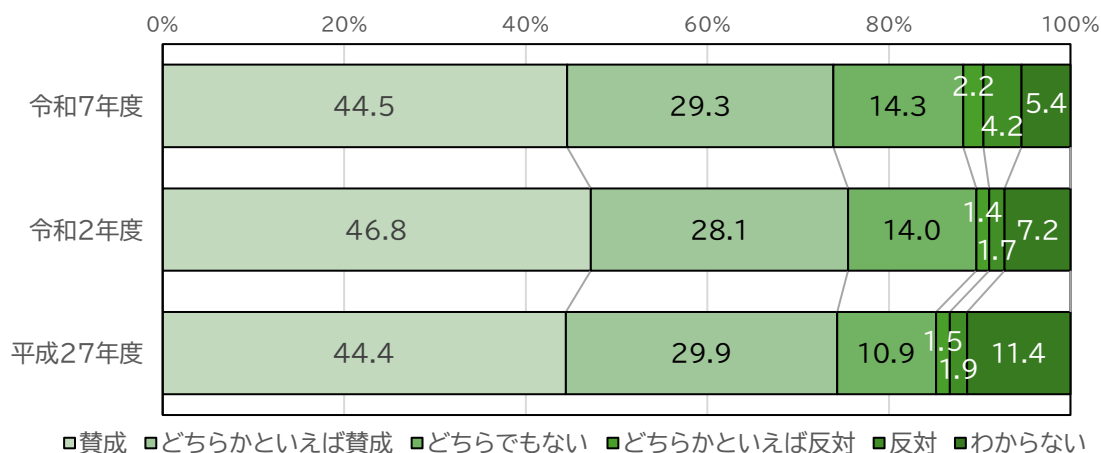


■知っていた ■聞いたことがある程度 ■知らなかった

### ③ 問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)

「紀の国森づくり税」の継続の是非については、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した方の割合は今回73.8%で、前回より若干少なくなったものの、高水準で推移している。一方、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した方の割合は6.2%で、過去2回に比べて大きく増加している。

図41 問14の経年比較(個人)

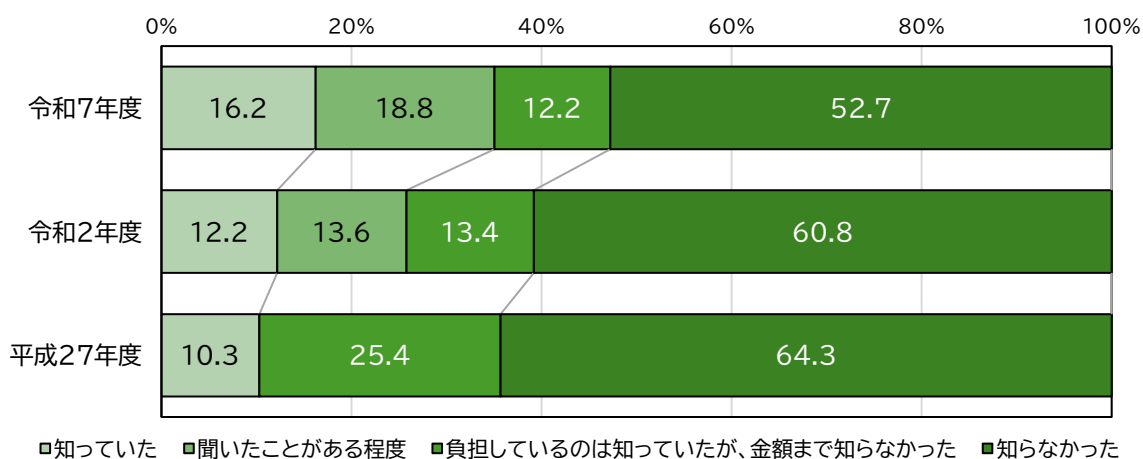


## 2) 事業所

### ① 問5(「紀の国森づくり税」の認知状況)

「紀の国森づくり税」の認知状況については、「知っていた」「聞いたことがある程度」「負担しているのは知っていたが、金額までは知らなかった」と回答した方の割合は、今回47.2%となっていて、回を重ねるごとに認知度は増加傾向にある。

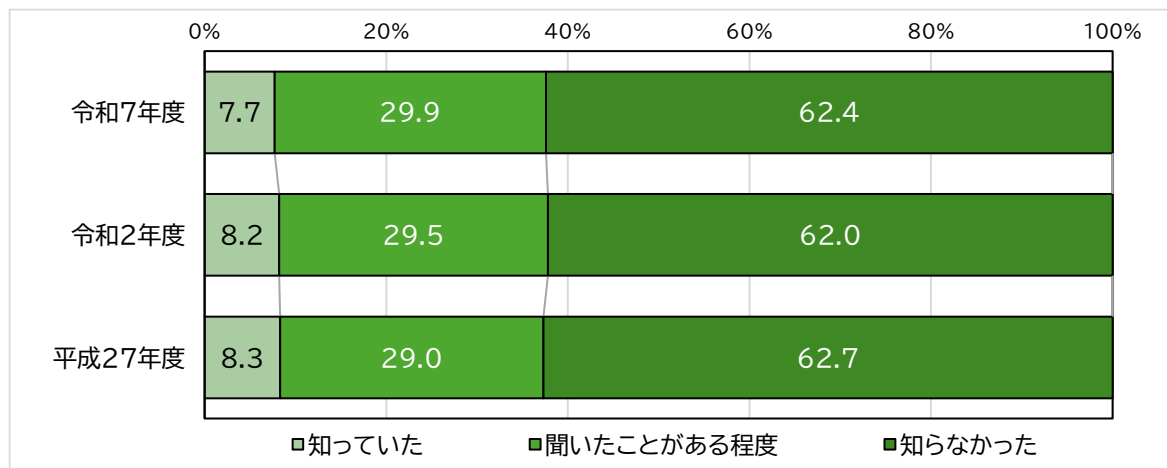
図42 問5の経年比較(事業所)



② 問6(「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況)

「紀の国森づくり基金活用事業」の認知状況については、今回、前回、前々回と大きな変化は見受けられない。

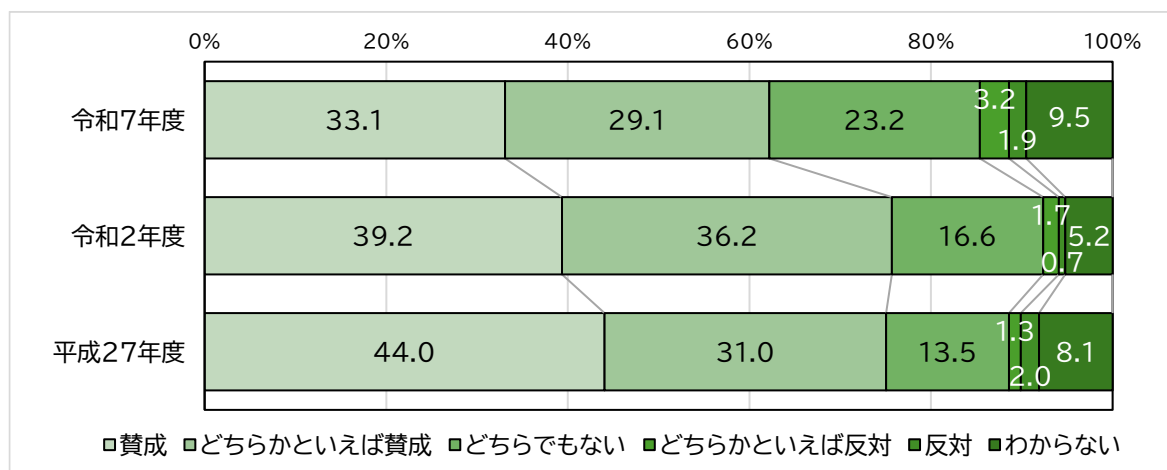
図43 問6の経年比較(事業所)



③ 問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)

「紀の国森づくり税」の継続の是非については、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した方の割合は今回62.2%で、最も低くなっている。一方、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した方の割合は今回5.1%で、最も高くなっている。

図44 問14の経年比較(事業所)



## 4. 自由意見集計

今回のアンケート調査は、最後の自由意見欄において個人949件中81件、事業所628件中72件の自由意見のコメントがあった。今回のアンケート調査の目的には、「紀の国森づくり税」に対する県民の意見を具体的に抽出し、同事業の効果を検証することである。よって、アンケート調査の中で得られた多くの自由意見は、「紀の国森づくり税」に対する県民の関心の高いものを具体的に分析する上で重要であるという判断から、自由意見の集計を実施した。

以下は、自由意見欄の集計結果をまとめたものである。自由意見をまとめるに際して、3つの分類作業を行った。第1に、問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)での回答6項目に基づいて分類した。第2に、先の分類から更に自由回答の内容に基づいて事業継続の是非を分類した。第3に、自由回答の内容から提言のあるものについては、「税について」「PR」「環境保全」などの項目に分類した。分類の定義は以下のとおりである。

個人の意見の中に複数の定義に含まれるコメントをしているものについては、それぞれを計上した。

表 3-1 分類の定義

分類名	概要(自由意見の内容)
税について	税金の使途、使途の報告などの税に関連する提案、疑問
PR	PRの必要性、PR不足に対する不満、PR方法の提案
環境保全	水源確保、災害対策等に観点を置いた森林の環境保全に関する提案
方向性	事業の目的・内容に対する提案、疑問
税負担	税金の徴収に対する疑問、反対意見
産業育成	産業の育成につながる事業支援の提案
観光政策	森林事業の観光資源としての利用提案
雇用対策	森林従事者の育成、雇用創出に関連する提案
県産材利用	県産材の利活用をした事業提案
獣害対策	獣害対策の提案
公有林化	森林の買い取りへの提案
民有林管理	私有林の支援に対する疑問、管理に対する提案
国との連携	国との森林整備事業の連携の提案
教育	啓発活動を含む教育事業の提案
アンケート批判	当該アンケート調査事業に対する批判意見

### (1) 個人

- 自由意見を問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)で分類すると、「賛成」が47件、「どちらかといえば賛成」が13件、「どちらでもない」が8件、「どちらかといえば反対」が4件、「反対」が8件、「わからない」が1件であった。
- 自由意見で【紀の国森づくり税】の継続の是非を問わず多く見られた意見は、「方向性」(35件)に関連するものであった。その多くは、【紀の国森づくり基金活用事業】のさらなる発展への期待といった内容であった。その他、森林環境税との重複課税を指摘する声や、木製ガードレールの強度・耐久性に懸念を示す声が複数あった。
- 【紀の国森づくり税】継続に「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答した者の自由意見では、「方向性」(27件)が1番多く、次いで「環境保全」(16件)が2番目に多かった。1番多かった「方向性」に関しては、【紀の国森づくり基金活用事業】のさらなる発展への期待といった内容であった。2

番目に多かった「環境保全」に関しては、環境保全の重要性や、登山道等といった森林景観の整備に関する意見が見られた。

- 「どちらでもない」と回答した者の自由意見では、「PR」(4件)が多く、【紀の国森づくり基金活用事業】の周知不足や、【紀の国森づくり税】の使途や報告の要望に関するものであった。また、「方向性」(3件)と「環境保全」(2件)も見られ、ソーラーパネルの設置による森林伐採に疑問を呈する内容であった。
- 「どちらかといえば反対」、「反対」と回答した者の自由意見では、「税負担」(7件)、「税について」(5件)、「方向性」(4件)が多く、令和6年より課税(徴収)が始まった森林環境税(国税)との重複課税を疑問視する声など、【紀の国森づくり税】の継続への反対意見が主なものであった。
- 「わからない」と回答した者の自由意見では、「税について」「方向性」(それぞれ1件)が見られ、【紀の国森づくり基金活用事業】の意義や方向性に対して疑問視する内容であった。

## (2) 事業所

- 自由意見を問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)で分類すると、「賛成」が31件、「どちらかといえば賛成」が19件、「どちらでもない」が12件、「どちらかといえば反対」が1件、「反対」が6件、「わからない」が3件であった。
- 自由意見のうち最も多かったものは「方向性」(26件)であった。その多くは、【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」(14件)、「どちらかといえば賛成」(10件)と回答した者からのもので、森林を保全する行政の姿勢への賛同の意見であった。
- 【紀の国森づくり税】の継続に「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答した者(50件)からは、「方向性」に次いで「県産材利用」(6件)が多く、特に木製ガードレールの強度や耐久性への不安の意見が多かった。次いで「PR」(5件)では、税の使い道の情報発信を積極的に実施してほしいという要望が多かった。また「環境保全」(5件)では、山林の保水力の向上や太陽光発電による森林伐採への懸念の声があった。さらに「獣害対策」(5件)では、近年問題となっているクマ被害への対策を望む声が目立った。
- 「どちらでもない」と回答した者からは、「環境保全」(4件)で太陽光発電による森林伐採への懸念などの意見があった。
- 「どちらかといえば反対」、「反対」と回答した者からは、「税負担」(2件)「税について」(1件)で、森林環境税との重複や税を他の施策に利用すべきなどの理由から【紀の国森づくり税】の廃止を求める意見があった。
- 「わからない」と回答した者からは、「PR」(2件)で、税の使い道など広報を強化し、周知を高めるよう要望する声があった。

表 3-2 自由意見と問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)とのクロス集計(個人)

大分類		中分類		小分類	主な提案内容(括弧内は件数)
問14の回答	件数	自由意見欄 評価	件数	うち提言 あり件数	
賛成	47	肯定	21	1	PR(1),環境保全(4),方向性(17)
		やや肯定	14	9	税について(1),PR(3),環境保全(5),方向性(4),税負担(1),県産材利用(1),獣害対策(1),国との連携(1),教育(1)
		不明	11	9	PR(2),環境保全(4),方向性(2),産業育成(1),獣害対策(1),国との連携(1),教育(2)
		やや否定	0	0	
		否定	1	1	県産材利用(1)
どちらかといえば賛成	13	肯定	6	1	PR(1),環境保全(1),方向性(2),県産材利用(1),教育(1)
		やや肯定	4	2	環境保全(2),方向性(2)
		不明	1	1	獣害対策(1)
		やや否定	2	0	県産材利用(2)
		否定	0	0	
どちらでもない	8	肯定	2	0	環境保全(1),方向性(1)
		やや肯定	2	1	PR(1),方向性(2),県産材利用(1)
		不明	2	1	税について(1),PR(1),環境保全(1)
		やや否定	2	2	PR(2),税負担(1)
		否定	0	0	
どちらかといえば反対	4	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	0	0	
		やや否定	2	2	税負担(2)
		否定	2	1	税負担(2)
反対	8	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	0	0	
		やや否定	1	0	税について(1)
		否定	7	2	税について(4),方向性(4),税負担(3),県産材利用(1)
わからない	1	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	0	0	
		やや否定	1	1	税について(1),方向性(1)
		否定	0	0	
無回答	0	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	0	0	
		やや否定	0	0	
		否定	0	0	
合計	81	肯定	29	2	
		やや肯定	20	12	
		不明	14	11	
		やや否定	8	5	
		否定	10	4	

※ 主な提案内容の件数は、複数要素を含むため合計数値は一致しません。

表 3-3 自由意見と問14(「紀の国森づくり税」の継続の是非)とのクロス集計(事業所)

大分類		中分類		小分類	主な提案内容(括弧内は件数)
問14の回答	件数	自由意見欄 評価	件数	うち提言 あり件数	
賛成	31	肯定	18	2	税について(1),環境保全(1),方向性(13),産業育成(1),獣害対策(2),教育(1)
		やや肯定	4	2	方向性(1),県産材利用(2),獣害対策(1),民有林管理(1)
		不明	6	6	税について(1),環境保全(2),獣害対策(1),民有林管理(3)
		やや否定	3	2	PR(2),環境保全(1),獣害対策(1)
		否定	0	0	
どちらかといえば賛成	19	肯定	11	2	PR(1),環境保全(1),方向性(8),県産材利用(1)
		やや肯定	3	3	PR(1),方向性(1),県産材利用(1)
		不明	2	1	税について(1),県産材利用(1)
		やや否定	3	2	PR(1),方向性(1),県産材利用(1)
		否定	0	0	
どちらでもない	12	肯定	2	0	方向性(2)
		やや肯定	2	2	環境保全(1),民有林管理(1)
		不明	5	5	環境保全(3),税負担(1),公有林化(1)
		やや否定	3	2	税について(1),PR(1),県産材利用(1)
		否定	0	0	
どちらかといえば反対	1	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	0	0	
		やや否定	0	0	
		否定	1	1	税負担(1)
反対	6	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	3	3	環境保全(2),雇用対策(1)
		やや否定	2	2	税について(1),アンケート批判(1)
		否定	1	0	税負担(1)
わからない	3	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	2	2	税について(1),獣害対策(1)
		やや否定	1	0	PR(1)
		否定	0	0	
無回答	0	肯定	0	0	
		やや肯定	0	0	
		不明	0	0	
		やや否定	0	0	
		否定	0	0	
合計	72	肯定	31	4	
		やや肯定	9	7	
		不明	18	17	
		やや否定	12	8	
		否定	2	1	

※ 主な提案内容の件数は、複数要素を含むため合計数値は一致しません。

## 5. 分析

今回のアンケート調査の分析では、単純集計結果、クロス集計結果だけではなく、自由意見の回答についても検討を行った。クロス集計で特に検討を行ったことは、【紀の国森づくり税】の継続に対して、自由意見の回答を重視した理由としては、第1に、最後の自由意見欄において個人81件、事業所72件と自由意見のコメントが多数であったこと、第2に、県民の率直な意見を分析に加えることにより、【紀の国森づくり税】に対する県民の意見を具体的に把握できると考えられる。

以上の前提に基づいて本アンケート調査結果を分析すると、【紀の国森づくり税】に対する個人・事業所の意識は以下3点の特徴を有すると考えられる。

### ① 「紀の国森づくり税」の継続に関して、個人で73.8%、事業所で62.2%が賛成。(未回答含む)

- 単純集計結果の問14によれば、個人で未回答も含め73.8%、事業所で同じく未回答も含め62.2%が【紀の国森づくり税】の継続に賛成。
- 【紀の国森づくり税】に対する認知度(問5)は、個人50.1%（「知っていた(27.9%)」、「聞いたことがある程度(16.1%)」、「負担しているのは知っていたが、金額までは知らなかった(6.1%)」)(p. 8、図5)、事業所47.2%（「知っていた(16.2%)」、「聞いたことがある程度(18.8%)」、「負担しているのは知っていたが、金額までは知らなかった(12.2%)」)(p. 16、図20)であった。
- 【紀の国森づくり基金活用事業】に対する認知度(問6)は、個人で46.6%（「知っていた(17.5%)」、「聞いたことがある程度(29.1%)」)(p. 8、図6)、事業所で37.6%（「知っていた(7.7%)」、「聞いたことがある程度(29.9%)」)(p. 16、図21)であった。
- 一方、【紀の国森づくり税】に対する認知度を基準としたクロス集計では、「聞いたことがある程度」、「金額までは知らなかった」と回答した者は、税の継続に関して、個人では、それぞれ75.6%、70.7%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答しており(p. 23、図32)、事業所では、それぞれ70.9%、72.4%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答している(p. 24、図35)。

### ② 「紀の国森づくり基金活用事業」の概要を知っていると考えられる個人の72.9%、事業所の87.5%が「紀の国森づくり税」の継続に賛成。

- 問6 と問14 のクロス集計結果によると、【紀の国森づくり基金活用事業】を「知っていた」と回答した個人の72.9%（「賛成(51.8%)」、「どちらかといえば賛成(21.1%)」)(p. 23、図33)、事業所の87.5%（「賛成(54.2%)」、「どちらかといえば賛成(33.3%)」)(p. 25、図36)は、【紀の国森づくり税】の継続に対して賛同している。このことから、【紀の国森づくり基金活用事業】の概要をある程度知っていると考えられる個人・事業所の多くには、【紀の国森づくり税】の意義が積極的に理解されている。
- 一方、「聞いたことがある程度」、「知らなかった」と回答した者に関しても、それぞれ個人では、75.3%、72.3%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答(p. 23、図33)、事業所では、70.4%、54.5%が「賛成」または「どちらかといえば賛成」(p. 25、図36)、と回答している。
- 問14(【紀の国森づくり税】の継続の是非に関する質問)と問13(今後更に森づくり基金事業で積極的に取り組めば良いと思うもの)のクロス集計結果では、【紀の国森づくり税】の継続に「反対」

と回答した者も何らかの取り組みを行い森林の整備が必要だと考えている回答者が多くみられた。特に、「花粉症対策」に関しては、個人(p. 26、図37)では65.0%、事業所(p. 27、図38)では58.3%が回答しており、他の施策と比較してもその高さは顕著である。

- 以上のことから、個人・事業所の多くは森林の役割や【紀の国森づくり基金活用事業】に係る重要性は、すでに認識しており、【紀の国森づくり税】が有効に使われているかの情報を適切に伝えることにより今後の意見にも反映される可能性がある。

### ③ 「紀の国森づくり基金活用事業」に対して期待する意見(森林整備、PR・情報の開示、次世代への継承・教育)

- 自由意見欄より、個人・事業所が【紀の国森づくり基金活用事業】に期待する内容は、①森林整備(植林事業、水源の確保、災害・獣害対策)、②PR、情報の開示、③次世代への継承・教育が主なものであった。
- 「①森林整備」について自由意見で多く出ていた意見をまとめると、水源としての森林整備、土砂崩れや大水害被害防止等の災害対策を積極的に支援し、近年問題となっているクマ被害の防止、ひいては地域の生活環境の保全を期待するというものであった。また、ソーラーパネルの設置による森林伐採に懸念を示す意見も複数見られた。
- 「②PR、情報の開示」では、【紀の国森づくり税】や【紀の国森づくり基金活用事業】についてもっと積極的に内容を周知・公開してほしいとの声が寄せられた。今回の個人・事業所アンケート調査の認知度の結果を見ても、まだまだ認知度を高めていく必要があると考えられるため、さまざまな形で情報公開を続けることが重要だと考えられる。
- 【紀の国森づくり基金活用事業】は、公募事業をはじめ、森林整備や、森林整備に関する教育・啓発活動、調査・研究活動などを政策として実施しているが、個人・事業所の意見としてはより積極的な環境への貢献、森林整備による生活環境の保全も期待していると考えられる。特に、「③次世代への継承・教育」において、豊かな自然を次世代に継承する願いや、子どもたちに向けた体験型の森林教育の実施を望む意見が多数見られた。
- 以上のように、個人・事業所の【紀の国森づくり税】に対する評価をまとめると、森林の持つ重要性は理解していて、その森林を守り育てるために【紀の国森づくり基金活用事業】による重点を置いて取り組む分野の必要性も感じていることが伺える。一方、税負担や用途・効果の報告に対する不満や、森林環境税との重複を指摘する意見も見られたため、【紀の国森づくり税】及び【紀の国森づくり基金活用事業】の目的、現状、成果、今後の方向性などの詳細を、より多くの県民にPR・報告することにより、さらに認知度を高めていく活動が必要であるといえよう。

## 6. まとめ

### (1) 「紀の国森づくり税」の継続に関して、個人・事業所で60%以上が賛成

税の継続については、個人の73.8%、事業所の62.2%が賛成しており、その重要性や必要性に対する関心の高さがうかがえる。

県民の多くは、森林の多様な機能や役割を理解し、森林整備の必要性に賛同している。そのため、森づくり税の効果的な活用状況について、継続的に情報発信を行うことで、さらに深い理解と支持が得られると考えられる。

### (2) 「紀の国森づくり基金活用事業」の概要を知っている層の70%以上が「紀の国森づくり税」継続に賛成

基金活用事業の概要を知っている層(個人の70%以上、事業所の80%以上)は、森づくり税の継続に賛成している。一方、認知のない層においても、個人の72.3%、事業所の54.5%が継続に賛成している。

以上から、情報周知の取組をさらに充実させることで、より多くの県民・事業者の理解と支持が得られると考えられる。

### (3) 「紀の国森づくり基金活用事業」に対して期待する意見(森林整備、PR、情報の開示、次世代への継承)

基金活用事業は、森林整備を中心に、公募事業や教育・啓発活動、調査、重要な森林の公有化など多様な取り組みを実施している。これらの取組内容や成果について、より積極的な情報公開を求める意見が多く寄せられた。

また、森づくり税の認知度にかかわらず、今後の基金活用事業においては「ふるさと再生の森」「森林景観づくり」「花粉症対策」などへの期待が高いことが示された。したがって、今後は森林整備を通じ、これらの施策を重点的に推進していくことが望ましい。

森林保全は多年にわたる継続的な取組であることから、その重要性に対する県民の認知度を高める活動についても、長期的かつ計画的に実施していく必要があると考えられる。

特に、次世代を担う子どもや若者への働きかけを一層強化するため、これまで実施している「県民の友」や放送媒体の活用、シンポジウムの開催、インターネットでの情報発信に加え、「森林環境教育(出前授業)」や「体験学習」など、教育現場との連携を強化することが重要である。

さらに、SNSなどの双方向メディアを活用した広報や、参加型交流イベント、都市部と山間部の関係人口づくりイベントにおける森林保全活動メニューの提供など、新たな広報・PR手法の導入を検討する必要があると考えられる。



紀の国森づくり基金活用事業は、紀の国森づくり税を活用し、森林環境の保全及び森林教育に関する施策の運用に使用しております。

- 問6 「紀の国森づくり基金活用事業」について、この調査までにご存知でしたか？（○は1つ）
- 1 知っていた
  - 2 聞いたことがある程度
  - 3 知らなかった

【現在までの取り組みについて、お考えをお聞かせ下さい】

- 問7 「ふるさと再生の森」では、森林の機能を復活するために、放置された竹林や生育不良のスギ・ヒノキ林から里山本来の広葉樹林への転換を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）
- 1 良い取り組みである
  - 2 良い取り組みだとは思わない
  - 3 わからない

- 問8 「森林景観づくり」では、健全な森林の育成や憩いの場の創出のために、森林への病害虫の防除や、県民参加による森林整備を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）
- 1 良い取り組みである
  - 2 良い取り組みだとは思わない
  - 3 わからない

- 問9 「紀の国緑育推進」では、こどもを含む県民を対象に、森林・林業の重要性について理解・関心を深めるため、森林体験や森林学習などの活動を支援しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）
- 1 良い取り組みである
  - 2 良い取り組みだとは思わない
  - 3 わからない

- 問10 「花粉症対策」では、花粉症を軽減するために、花粉の少ない苗木の育成や植栽への支援を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）
- 1 良い取り組みである
  - 2 良い取り組みだとは思わない
  - 3 わからない

- 問11 「森林公的管理」では、貴重な生態系や天然林、優れた景観を有する森林を県の公有財産として購入し、保護しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）
- 1 良い取り組みである
  - 2 良い取り組みだとは思わない
  - 3 わからない





紀の国森づくり基金活用事業は、紀の国森づくり税を活用し、森林環境の保全及び森林教育に関する施策の運用に使用しております。

問6 「紀の国森づくり基金活用事業」について、この調査までにご存知でしたか？（○は1つ）

- 1 知っていた
- 2 聞いたことがある程度
- 3 知らなかった

【現在までの取り組みについて、お考えをお聞かせ下さい】

問7 「ふるさと再生の森」では、森林の機能を復活するために、放置された竹林や生育不良のスギ・ヒノキ林から里山本来の広葉樹林への転換を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

- 1 良い取り組みである
- 2 良い取り組みだとは思わない
- 3 わからない

問8 「森林景観づくり」では、健全な森林の育成や憩いの場の創出のために、森林への病虫害の防除や、県民参加による森林整備を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

- 1 良い取り組みである
- 2 良い取り組みだとは思わない
- 3 わからない

問9 「紀の国緑育推進」では、子どもを含む県民を対象に、森林・林業の重要性について理解・関心を深めるため、森林体験や森林学習などの活動を支援しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

- 1 良い取り組みである
- 2 良い取り組みだとは思わない
- 3 わからない

問10 「花粉症対策」では、花粉症を軽減するために、花粉の少ない苗木の育成や植栽への支援を行っています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

- 1 良い取り組みである
- 2 良い取り組みだとは思わない
- 3 わからない

問11 「森林公的管理」では、貴重な生態系や天然林、優れた景観を有する森林を県の公有財産として購入し、保護しています。あなたはこの取り組みに対しどのように思われますか？（○は1つ）

- 1 良い取り組みである
- 2 良い取り組みだとは思わない
- 3 わからない









Research report

一般財団法人 和歌山社会経済研究所

Wakayama Institute for  
Social & Economic Development

〒640-8033 和歌山市本町2丁目1番地 フォルテワジマ6階

TEL : 073 (432) 1444 FAX : 073 (424) 5350

[www.wsk.or.jp](http://www.wsk.or.jp)